

2026年度 社会連携教育科目 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A9853】 社会連携フィールドワーク（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 オータムセッション/Autumn Session	1
【A9854】 社会連携フィールドワーク（ベーシック）〔伊藤 マモル〕 スプリングセッション/Spring Session	3
【A9871】 社会連携フィールドワーク（アドバンス）〔武貞 稔彦〕 オータムセッション/Autumn Session	7
【A9890】 社会連携フィールドワーク〔高見 京太、深野 聡〕 サマーセッション/Summer Session	9
【A9891】 社会連携フィールドワーク〔大間 哲〕 サマーセッション/Summer Session	11
【A9922】 社会連携PBL（アドバンス）〔高田 朝子、菅谷 正美、東 隆志、上原 航平〕 オータムセッション/Autumn Session	14
【A9941】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 春学期授業/Spring	16
【A9942】 社会連携講座（ベーシック）〔佐野 哲〕 春学期授業/Spring	18
【A9943】 社会連携講座（ベーシック）〔佐野 哲〕 秋学期授業/Fall	20
【A9944】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：高田 朝子、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 春学期授業/Spring	22
【A9945】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会〕 秋学期授業/Fall	23
【A9946】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：株式会社オリエントコーポレーション〕 秋学期授業/Fall	25
【A9947】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：伊藤 マモル、講師（ゲストスピーカー）：大日本印刷株式会社NEXUSホールディングス株式会社〕 オータムセッション/Autumn Session	27
【A9950】 社会連携講座（アドバンス）〔高見 京太、佐野 竜平、深野 聡〕 秋学期授業/Fall	30

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イオングループが事業展開する小売をはじめ、金融、サービス事業等について理解し、職場体験等を通じてグループ各社の仕事について理解を深めると共に、地域文化・風土の理解、グローバル思考の醸成、企業としての社会的役割などを学んでいただくことが本授業の目的です。本科目の履修に際しては、「社会連携講座（ベーシック）生活に関わるお金の知識講座」を履修済みであることが望ましいですが、本科目を履修するうえでの必須条件ではありません。尚、当実習は複数大学合同で実施します。協力体制の下で、グループワークに取り組んでいただき、相互理解・視野の拡大を図り、ビジネス提案を発表します。

【到達目標】

- ・学生は、グローバル社会における国際的な倫理観に関する情報、課題テーマに関する知識を自ら収集し、分析するスキルを身につけ、活動するための実践的なコミュニケーション能力や他者を巻き込みながらプロジェクトを遂行するために必要な指導力の重要性を理解することができるようになります。
- ・学生は、この授業を通じて、自らの体験をそれぞれが専攻する学問の体系と関係づけ、将来社会人として活動するために必要な知識や能力について考察を深め、自らのキャリアの展望について考察を深めることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

国内編5日間・海外編5日間ともに集合（対面）形式で実施します。合計10日間、他大学の学生と合同での実習です。前半はイオンフィナンシャルサービスおよびグループの国内拠点企業、後半は同グループの海外拠点企業が担当します。業務内容の説明や就業体験、社員とのセッションを通じ、業務内容への理解を深めます。また、実習前に事前学習を実施します。金融基礎や業界分析方法をレクチャーし、実習での理解度を高めます。実習後の事後学習では、自らの学びやグループワークでの役割等の振り返りと共に、今後の目標を考えます。※提出された課題や振り返りについては、実習中に適宜フィードバックします。

<授業スケジュール>

2026年8月10日（月）～2026年8月21日（金）のうち、10日間

国内編：8月10日（月）～8月14日（金）

海外編：8月17日（月）～8月21日（金）香港

※その他詳細は、学習支援システムにてお知らせするため、本授業の受講を検討している学生は、学習支援システムにて仮登録を行ってください。

※履修を希望する方は、【5月17日（日）23:59】までに申請フォーム（<https://forms.gle/tbBiBsw8jA9gfwV7>）へ入力してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前学習①	金融基礎を学び、イオンの金融事業を理解する。企業分析。
2	事前学習②	ビジネスフレームワーク、海外調査（香港）
3	国内外での就業体験付き実習（国内編）①	オリエンテーション、目標設定、イオン金融事業について、国内金融事業会社の業務紹介
4	国内外での就業体験付き実習（国内編）②	企業の歴史を理解する、金融事業会社の拠点（店舗）見学、フィールドワーク
5	国内外での就業体験付き実習（国内編）③	職場体験、グループワークにてプレゼンテーションテーマ討議
6	国内外での就業体験付き実習（国内編）④	グループワーク、プレゼンテーション資料作成、概要発表
7	国内外での就業体験付き実習（国内編）⑤	プレゼンテーション、社員との座談会、国内編まとめ。イオン金融事業の海外展開について
8	国内外での就業体験付き実習（海外編）①	海外編オリエンテーション、現地のビジネス展開、現地視察
9	国内外での就業体験付き実習（海外編）②	海外の金融事業紹介（香港）
10	国内外での就業体験付き実習（海外編）③	部署紹介、現地社員とのワークセッション（英語）
11	国内外での就業体験付き実習（海外編）④	プレゼンテーション資料作成（英語）、発表リハーサル
12	国内外での就業体験付き実習（海外編）⑤	プレゼンテーション（英語）、社員との座談会、研修まとめ
13	事後学習①	業界・企業研究（自身が興味をもつ業界や企業について3C調査など）
14	事後学習②	体験発表（学びと気づき、自己分析）、課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

業界分析、企業分析、自己分析、振り返り、成果報告会プレゼンテーション準備などを授業外学習として課します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

資料については開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期間中に目指す「個人目標」を設定。毎日の「振り返り」、最終日にまとめレポート（個人目標の達成度等含む）提出（60%）、積極的な参加姿勢やグループワークでの役割等（40%）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは一人一人の役割の大切さを実感した、プレゼンテーションテーマである新規サービスの提案では「ビジネス視点の考え方」を学ぶことができた、多くの声をいただきました。各自でインターンシップ期間中の目標設定をしますが、多くの学生が達成し更に新しい目標を持つことができています。今回は国内編・海外編ともに集合（対面）で実施としていますので、活発なグループワークディスカッションやプレゼン準備となるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションに向け、パワーポイント資料の作成を行ってもらいます。資料作成や情報収集のためパソコンを準備してください。実習会場ではwi-fiを整備しますが、会場外やフィールドワーク時にパソコンを使用する場合はWi-Fi等通信機器を準備してください。Word、Excel、PowerPointは使用可能な状態にしておいてください。

【その他の重要事項】

・国内編は、イオンフィナンシャルサービス株式会社（神保町、本郷、一部幕張を予定）での集合形式（対面）です。会場までの交通費は自己負担となります。

- ・海外編は、AEON CREDIT SERVICE (ASIA) CO., LTD. (香港)での集合形式(対面)です。航空券・宿泊ホテルはイオンフィナンシャルサービスグループにて手配しますが、渡航・宿泊費用(概算25～35万円)は自己負担となります。大学からの補助はありません。
- ・参加者は海外旅行損害保険及びインターンシップ損害賠償保険に加入が必要です。
- ・国内／海外ともに、状況によりスケジュールや内容が変更となる場合があります。
- ・本授業は定員制(3～5名)です。受講希望者が定員を超えた場合は選抜を実施します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the work of each Group company in the retail, financial, and service businesses in which the AEON Group operates, as well as its understanding of local culture and climates, fostering a global orientation, and its social role as a global company.

[Goal]

Students will be able to acquire the skills to collect and analyze information on international ethics and knowledge on issue themes in a global society and understand the importance of practical communication skills for activities and the leadership skills needed to carry out projects while involving others. Students will be able to relate their own experiences to the academic system of their major, deepen their reflection on the knowledge and abilities necessary to work as a member of society in the future, and deepen their consideration of their own career prospects.

[Work to be done outside of class]

Industry analysis, company analysis, self-analysis, reflection, and preparation for the results presentation will be assigned as out-of-class study. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

[Grading criteria]

The main evaluation will be based on daily reflections and the submission of a summary report (including the degree of achievement of set personal goals) on the last day (60%), and active participation, role in group work, etc. (40%).

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

伊藤 マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし、授業中に大きな災害が起きて、大学から帰宅できなくなったら？

この授業では、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型帰宅困難者の模擬体験」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、教室での宿泊や寒冷環境での生活を体験しながら、災害時でも健康を守り、生活を続ける力（レジリエンス）を学びます。例えば、断水時のトイレ対策、非常食の栄養、寒い教室での睡眠環境などを実際に体験し、災害時に役立つ知識と行動力を身につけます。千代田コンソーシアムの大学の学生と協働しながら課題解決に取り組む体験型プログラムです。

災害時でも冷静に行動できる力や、将来の防災・ボランティア活動にもつながる実践力を身につけたい人の参加を歓迎します。

豪雪や極寒を含む厳しい気象条件、さらには豪雨・猛暑・感染症など、地震・津波・噴火などの自然災害はもはや特別な出来事ではなく、私たちの日常に隣接するリスクとなっています。とりわけ本授業を実施する3月は、寒冷環境下での対応力も重要になります。

本授業は、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトにライフラインが制限された環境下での模擬的帰宅困難者受入施設滞在体験を通して、帰宅困難者に生じやすい健康面・環境衛生面の課題に目を向け、不便な状況でも「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を組み立てる力（レジリエンス）を実践的に学びます。

【到達目標】

1. 寒冷環境下の避難生活が心身に及ぼす影響を科学的に理解し、災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2. 断水・停電・教室宿泊などの制限下で、水が流れない場合のトイレ対応を含め、排泄・食事・就寝環境を安全かつ衛生的に整える実践力を身に付け、改善案を示せる。
3. 他大学学生とグループで協働し、避難生活の課題に対する実行可能な解決策をまとめられる。
4. 専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5. 学びを携行品・備蓄などの日常の備えに生かし、継続的な備えの習慣化と自助防災力を高められる。
6. 生じた問題を適切に判断し、安全に帰宅するための行動計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、スプリングセッション期間内に市ヶ谷キャンパスにておいて開講します。授業の定員は60名とし、履修希望者が定員を超えた場合は履修者選抜を行います。

第1回～4回の事前授業（2027年3月16日）では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。

第5回から第14回は、一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を模擬体験する授業を行います。教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させることを目指します。

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/SRnqC4CG3jLzwyzu7>

●申請期間

2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**11月24日（月）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**11月19日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mamol@hosei.ac.jp

③履修登録は**2027年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラズルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3月16日（2限）：ガイダンス	1) 防災教育授業の目的 2) 授業におけるリスク管理と誓約 3) 大規模自然災害時の帰宅困難者の実態
2	3月16日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1) グループワーク（アイスブレイク） 2) 帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出 3) 解決策を議論する
3	3月16日（4限）：帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題に関するグループ発表（課題共有）	1) 発表資料を作成する 2) 発表会 3) クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識
4	3月16日（5限）：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1) 一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2) 健康に関する測定の意義を再確認する 3) 健康データの計測（歩数・睡眠・心拍等）

5	3月19日(2限)：集合・疑似体験シナリオの確認	1) 教室に集合し、点呼、健康測定 2) スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 3) 一泊二日のスケジュールと役割分担を確認 4) ライフハック・プロダクトの観点で「携行品」全公開(何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する)	12	3月20日(2限)：グループワーク	1) 問題解決のためのグループワーク 2) 課題とヒント ①就寝環境に関する問題：安眠と健康維持、硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化、改善案を考案、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめ、より高度な環境改善の問いを得る ②トイレに関する問題：衛生管理と尊厳、臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定、過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める ③携行品・非常食に関する問題：自助の最適化、今回の装備と食事の過不足、生存と健康保持に「真に必要なリスト」、「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定、栄養学・生存科学の視点から、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる ※ワークの手順：個人ワーク⇒グループ議論
6	3月19日(3限)：災害時のトイレ(衛生対策)実習	1) 断水した既設トイレの災害用セットアップ(減災養生実習)[講師：総務部こ・小林次長] 2) 災害時のトイレ使用と排泄物処理体験 ※トイレ実習は翌日1限開始前まで実施する ※手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録する	13	3月20日(3限)：整理・資料作成	1) 4つのテーマ(トイレ・食・携行品・睡眠)について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2) 帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
7	3月19日(4限)：非常食の試食・栄養バランスを考える	1) 非常食の考え方 2) 非常食の開発コンセプト	14	3月20日(4限)：レポートの作成と総括	1) 健康測定結果の解析：1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2) サバイバル戦略の構築：健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3) 行動計画の策定：帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる
8	3月19日(5限)：備蓄非常食の搬送	1) 大学備蓄品の受取と運搬(備蓄品倉庫の確認) 2) 夕食 3) 数社の非常食の試食と評価 ※空腹感、喉の渇き、食事の孤独感や焦燥感など、心理的变化をサンプリングする			
9	3月19日(6限)：健康測定・就寝準備及び翌朝の健康測定・朝食	1. 就寝前 1) 教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 2) 健康測定 3) この時点での疲労度とストレス値を記録する 2. 翌朝、起床後 1) 健康測定 2) 不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録する 3) 朝食(大学の備蓄品等)を摂る 4) 清掃・片付け ※体育館3F柔道場(または薩埵ホール等の大教室)へ移動			
10	3月19日(7限)：普通救命講習・前半(全3時間)	1. 成人の心肺蘇生(人工呼吸・胸骨圧迫) 2. AED使用法			
11	3月20日(1限)：普通救命講習・後半(全3時間)	1. 異物除去(気道異物) 2. 止血法 3. 運搬法(ログロール、ブランケットキャリー、各種搬送法)[外部講師：麴町消防署員(3～4名)] ※修了後「救命技能認定証」交付			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

また、3月16日の事前授業解散後、スマートフォンのアプリケーションを利用した自らの健康情報(睡眠時間、心拍数、歩数、消費エネルギー等)の収集・記録を行う等の準備学習を実施します。日常生活における健康情報は、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的としています。

※重要：本授業では、準備学習の一環として、東京消防庁および公益財団法人東京防災救急協会が実施する短縮救命講習(普通救命講習の短縮版)を受講します。

この講習は、通常3時間で実施される普通救命講習のうち、学科部分を事前にオンラインで学習する方式で行われます。そのため、受講にあたっては以下の事前学習を必ず修了しておく必要があります。

1. 公益財団法人東京防災救急協会が提供する電子学習室(eラーニング)による事前学習の受講
2. オンライン確認テスト(筆記試験)の修了

オンライン確認テストに合格した履修者のみ、授業内で実施する短縮救命講習（胸骨圧迫・AED操作等の実技訓練）に参加することができます。

本授業では、上記の事前学習を授業開始前までに修了することを必須とします。受講に必要なURLおよび具体的な手順については、別途案内します。

なお、期日までに事前学習を修了していない場合は、当該講習に参加できない可能性があります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（千代田区キャンパスコンソーシアム）』、令和3年度～5年度の共同研究報告書
 - 『最期の声 ドキュメント災害関連死』（山川徹 著 / KADOKAWA）
 - 『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』（京都大学防災研究所 監修 / 二見書房）
 - 『人が死なない防災』（片田敏孝 著 / 集英社新書）
 - 『帰宅困難者対策ハンドブック』（内閣府 / 東京都）
 - 『避難所でのトイレ対策マニュアル』（特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編）
 - 『防災キャンプ活動中のヘモグロビン濃度とストレスの変動』、伊藤マモル、宮崎賢哉、2022年3月31日、法政大学スポーツ研究センター紀要第40号、p.17-23
 - 『実験医学 2022年7月 Vol.40 No.11 睡眠医学～眠りの分子・神経基盤を解明し、睡眠異常へ介入する』、上田泰己（その他）、羊土社
 - 『女たちの避難所』、垣谷美雨、新潮文庫
 - 『警視庁災害対策課ツイッター防災ヒント110』、日本経済新聞出版社
 - 『平成28年熊本地震大学避難所45日 障がい者を受け入れた熊本学園大学震災避難所運営の記録』、熊本学園大学（著）、熊本日日新聞社
 - 『避難所に行かない防災の教科書』、西野弘章、扶桑社
- この他にも必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60%
- レポート・作成した資料等：40%

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。

ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020～2023年度に実施した「市ヶ谷キャンパスにおける首都災害時帰宅困難者問題への対応（一時滞在避難施設における二次災害・ウイルス感染等のゼロを目指して）」の履修学生を対象に行ったアンケートでは、履修満足度は非常に高く、実体験を通じて得られる学びの価値の大きさに気づいたという声が大多数を占めました。一方で、情報共有や議論の時間をさらに充実させてほしいという要望も多く寄せられました。

こうした高い評価と、類似する課題解決型フィールドワーク科目の拡充を求める声を背景に、2024年度にはロールプレイを取り入れたアクティブラーニング型の防災教育フィールドワークを新設しました。そのアンケート結果からは、体験型防災教育が学生の災害認識を具体化するうえで一定の効果を示し、履修学生が災害時の行動や備えをより自分事として考えるようになったことが確認されています。

これらの実践から、体験型の防災教育は、非日常的状況を想定した学習を通して、将来の災害時における判断や行動選択の基盤となる心理的準備や認識の枠組みを形成するうえで、有効な役割を果たすことがわかってきました。

本授業で実施する、キャンパス内での宿泊を伴う帰宅困難者想定滞り体験は、多くの学生にとってこれまでにない貴重な学習機会になると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。

重要なことは、本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していることです。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。

また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて示します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えを、状況や体調に応じて各自で調整してください。

【その他の重要事項】

1. 本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。

2. その他

1) この授業でLINEグループを作成した場合において、誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。

2) 2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがあります。そのため、履修する場合はスプリングセッション期間（授業予定日：3/16～3/20）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。

3) 3/19の宿泊について

体育館や教室では、発災後の停電を想定した状況をより現実的に体験するために暖房の使用を制限する予定です。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に暖房を使用します。

4) 本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。

5) 授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。

6) 本授業で得られた実習風景の写真や、健康測定結果、議論の内容は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。

なお、本科目は以下のSDGsのゴールに該当します。

3：すべての人に健康と福祉を

4：質の高い教育をみんなに

6：安全な水とトイレを世界中に

10：人や国の不平等をなくそう

11：住み続けられるまちづくりを

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course addresses the increasing reality that natural hazards — such as earthquakes, heavy snowfall, extreme cold, torrential rains, heatwaves, and infectious diseases — have become everyday risks. Conducted in March, the course emphasizes adaptive capacity under cold conditions.

Through a two-day, one-night experiential “Campus Shelter Simulation,” students participate in a collaborative, problem-solving program that assumes a campus-based stranded commuter scenario. By experiencing life in a simulated shelter environment with restricted lifelines, students learn practical resilience, including maintaining health and managing daily living during emergencies, while engaging in cooperative learning with students from partner universities.

【Learning Objectives】

- 1.To scientifically understand the physical and mental impacts of living in cold evacuation environments and make appropriate health and safety decisions during disasters.
- 2.To develop practical skills for safely and hygienically managing toileting, meals, and sleeping arrangements under restricted conditions such as water outage, power outage, and classroom sheltering, and to propose feasible improvements.
- 3.To collaboratively formulate actionable solutions to shelter-related challenges with students from other universities.
- 4.To evaluate and refine proposed solutions from a professional and evidence-based perspective.
- 5.To apply the learning outcomes to personal preparedness, improving individual disaster self-help capacity and establishing sustainable preparedness habits.
- 6.To create a practical action plan for returning home safely after a disaster.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.

Students are expected to read assigned materials, research emergency supplies, organize health-related data from field activities, and prepare for written reports.

From the preliminary session onward, students must also collect personal health information—such as sleep duration, heart rate, steps, and energy expenditure—using a smartphone application. These data will be compared with measurements taken during the simulated “stranded commuter” experience to evaluate changes and potential health risks.

Furthermore, this course requires completion of the Shortened Emergency Life-Saving Course administered by the Tokyo Fire Department and the Tokyo Disaster Prevention & Emergency Medical Service Association. The following mandatory pre-learning components must be completed before attending the practical session:

Completion of the online e-learning module.

Passing the online written confirmation test.

Students who do not pass the online test cannot participate in the in-person practical training.

The on-site session focuses exclusively on practical skills such as chest compressions and AED operation.

【Grading Criteria / Policy】

Student performance will be assessed comprehensively based on the six learning objectives, with emphasis on the process of collaborative problem-solving, engagement during class activities, and demonstrated skill development.

Evaluation breakdown:

Participation and conduct during class activities (teamwork, communication, leadership, facilitation, etc.): 60%

Final presentation and submitted materials: 40%

A rubric-based evaluation—including peer assessment within each group—will be used to ensure fairness and avoid one-directional grading.

Attendance at all sessions is expected due to the experiential and skill-based nature of the course. Students who face medical or physical challenges will receive individualized consideration and alternative evaluation as appropriate.

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携フィールドワーク (アドバンス)

武貞 稔彦

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進み、様々な課題に直面する離島、長崎県壱岐市では、住民と行政が一丸となり「豊かに暮らし続けるまち」の実現に向けて取り組みを進めている。本事業では、座学による事前講義の後、実際に現地を訪問する。現地において様々な課題解決に取り組む実践者と対話を重ね、そこで得た知見や新しい発見、発想をもとに、「将来、私たちが実現したい社会」について学生一人一人が考え発信する機会とする。

【到達目標】

地域の課題は場所により様々であるが、地域住民が主体的に取り組まないといけないという点においては、どこも共通である。壱岐市は外部の知見、技術を取り入れながらも、地域住民が中心となった活動、取り組みを大事にしている。SDGs未来都市として環境、経済、社会のそれぞれに配慮した地域社会づくりを進める壱岐市民と参加学生がどのような連携ができるかを考え、自分が住む地域で何ができるかを自分の言葉で述べることを目標とし、フューチャーリテラシーの獲得につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VII」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義でインプットをした後に、グループディスカッションを行います。次回講義に向けた課題を出し、個人・グループで発表する機会を多く設けます。

<授業スケジュール>

① 5月18日 16:50～18:30

② 5月25日 16:50～18:30

③ 6月1日 16:50～18:30

④ 6月8日 16:50～18:30

⑤ 8月3日～5日：実地研修 詳細は別途案内

⑥ 9月4日 詳細は別途案内

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	日本の社会課題と解 オリエン 決事業への理解を深 テーショ める ン	日本が直面している主要な社会 課題の概観 -社会課題解決事業の定義と目的 (企業がなぜ取り組むのか) -日本旅行における課題解決事業 とは(なぜ壱岐市で取り組んでいる のか) -参加者同士のアイスブレイク

第2回	壱岐市のまちづくり 訪問地域 を知る	壱岐市の目指すまちづくりのビジ ジョン - 課題背景と取り組む上での課題 (なぜ、どのような人たちが連 携しているのか) - 自分たちが取り組みたい課題 解決事業についてのグループ ワークショップ
第3回	事例分析とワーク 旅の目的 を肖ッ を考える	社会課題解決事業の実践者によ る取り組み事例の講義 - 課題解決の道筋や具体的な課 題の分析 - 自分たちが取り組みたい課題 解決事業についてのグループ ワークショップ
第4回	フィールドワークの 研修内容 を決める	壱岐で学びたいことをテーマに したワークショップ(学びたい こと、その理由) - グループ毎に研修テーマを発 表・フィードバック
第5回	中間発表 壱岐市へ の提案	壱岐市での現地研修を通じて、 実際行われている事例を体験 - 研修内容の振り返りと学びの 共有(壱岐市へ提案発表) 「自分が実現したいキャリア(ラ イフスタイル)と、壱岐市で実 現できること」
第6回	現地フィールドワー ク ① 8月3 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地にて実際の事例を体験する。
第7回	現地フィールドワー ク ② 8月3 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地にて実際の事例を体験する。
第8回	現地フィールドワー ク ③ 8月4 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地にて実際の事例を体験する。
第9回	現地フィールドワー ク ④ 8月4 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地にて実際の事例を体験する。
第10回	現地フィールドワー ク ⑤ 8月4 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地にて実際の事例を体験する。
第11回	現地フィールドワー ク ⑥ 8月5 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地フィールドワークの内容を 振り返り、学びを共有する(壱 岐市への提案発表)
第12回	現地フィールドワー ク ⑦ 8月5 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地フィールドワークの内容を 振り返り、学びを共有する(壱 岐市への提案発表)
第13回	現地フィールドワー ク ⑧ 8月5 日	現地にグループごとにフィー ルドワークを実施する。 現地フィールドワークの内容を 振り返り、学びを共有する(壱 岐市への提案発表)

第14回 リアル 関係者に対して、自分たちが地
成果発表 - 「自分が目指すライ 域社会に果たす役割を考え、具
会 フスタイルと、それ 体的なアクションを発表する
を実現させる社会と
は」

Initiative and contribution in field session: 20%
Solution and Presentation for Assignments (S&P): 30%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2～3時間程度と想定されます。
(個人準備時間1～2時間、グループ活動時間2～3時間を想定)

【テキスト（教科書）】

参考記事等を適宜共有します。

【参考書】

<https://iki-sdgs.jp/>

<https://www.ikikankou.com/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

現地研修への主体性 20%

課題へのソリューション並びにプレゼンテーション（S & P） 30%

【学生の意見等からの気づき】

2026年度新規開講科目のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

＜履修方法について＞

履修を希望する方は、以下のフォームから申請してください。

<https://forms.gle/DJNHtsZxcdszRsp56> (4月20日(月) 23:59まで)

※申請者数が定員を超過した場合は、総合的に選抜します。

※選考結果については、4/27(月)までを目途に、選考通過・落選を
問わず、申請者全員の法政大学メールアドレス (@stu.hosei.ac.jp)
宛にご連絡します。

＜費用について＞

本授業の受講者には、フィールドワークにおける移動費（航空料金・
船舶料金・現地異動）・宿泊費等として最大約7万円程度を負担して
いただきます。

詳しくは授業内にて説明します。

なお、本授業は法政大学後援会より助成を受けており、上記金額を
超える分の宿泊料や航空券代は助成金で賄われます。

その他、事前・事後学習のために市ヶ谷キャンパスに通う交通費や、
フィールドワーク中の昼食費用等は学生の自己負担となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Iki City, Nagasaki Prefecture, a remote island facing various challenges due to a declining birthrate and aging population, residents and the government are working together to make the city a place where people can continue to live prosperously. This program will provide an opportunity for students to visit the city and engage in dialogue with practitioners working to solve various issues, and to use the knowledge, new discoveries, and ideas gained from these visits to think about and communicate the society they want to create in the future.

【Learning Objectives】

Regional challenges vary by location, but they all share the commonality that local residents must take the lead in addressing them. While incorporating external expertise and technology, Iki City places great importance on activities and initiatives centered around its residents. As an SDGs Future City, Iki City promotes community development that considers environmental, economic, and social aspects. The goal is for Iki citizens and participating students to consider what kind of collaboration is possible, articulate in their own words what they can do in their own communities, and thereby gain future literacy.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review time for this class is estimated to be approximately 2 to 3 hours each.

(Estimated as 1 to 2 hours for individual preparation and 2 to 3 hours for group activities)

【Grading Criteria /Policy】

Contribution in regular sessions: 50%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク

高見 京太、深野 聡

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：1単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、動物福祉への関心が世界的に高まる中、引退競走馬のアフターケアが重要な課題として注目されています。本授業では、馬の生態や馬産業の基礎知識、競走馬の競技における役割、そして引退後のセカンドキャリアの構築に至るまで、幅広い内容を学びます。

これらの学びを基に、フィールドワークを通じて実践的な取り組みを体験し、さらに「人馬のウェルビーイング」という理念について深く理解を深めます。引退競走馬のセカンドキャリア構築がもたらす可能性を多角的に考察し、最終的には、人と馬の双方に健康と幸福をもたらす方法を議論し、その実現に向けた具体的な方策を探ります。

【到達目標】

- ・競馬の背景にある文化や学び、さらに人々の交流について理解する。
- ・引退競走馬のセカンドキャリア構築における具体的な手法を習得する。
- ・人馬のウェルビーイングを推進するための効果的なアプローチを発見し、実践に活かす力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

1日目：8月3日（月）

【集合：法政大学市ヶ谷キャンパス / 解散：船橋競馬場】
市ヶ谷キャンパス教室

・ガイダンス

・競馬、競走馬、人馬のウェルビーイングに関する講義を受講（バス移動）

船橋競馬場

・競走馬のレース前、レース中を観察

2日目：8月4日（火）

【集合：法政大学多摩キャンパス城山校地馬場 / 那須塩原へバス移動】

多摩キャンパス馬場

・引退競走馬のリトレーニングおよびグランドワークの見学

・馬房作業や馬とのふれあい活動を体験

（バス移動）

・地方競馬および騎手育成の仕組みに関する講義を受講

（地方競馬教養センター 那須寮に宿泊）

3日目：8月5日（水）

【地方競馬教養センター】

・騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬を観察

・引退競走馬に支えられながら研鑽を積む騎手候補生の訓練現場を見学

・教養センターの生徒との意見交換

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(8月3日)	ガイダンス	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワークを実施する際の受講ポイントを理解する
2(8月3日)	「人馬のウェルビーイング」の基礎知識	人馬のウェルビーイングについての基礎的な事項を理解する
3(8月3日)	競馬の概要	競馬とは何か、地方競馬の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する地方競馬全国協会（NAR）について理解する。
4(8月3日)	競馬場でのレース前の競走馬観察	レース前の馬の様子を観察し、馬の挙動や馬を引率する人の役割を理解する
5(8月3日)	競馬場でのレース中の競走馬観察	馬が見せるレース中の全力疾走とその直後の様子を観察し、馬の能力を理解する
6(8月4日)	引退競走馬のリトレーニングの基礎	リトレーニング手法の一つである「グラウンドワーク」のデモンストレーションを見学し、実務現場を理解する
7(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬体観察）	実馬を展示して引退競走馬に触れながら、生態を理解する
8(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（触れ合い）	馬の性質を理解するために、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬との触れ合いを体験する
9(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬体手入れ）	引退競走馬への理解を深めるため、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬の手入れを体験する
10(8月4日)	地方競馬教養センターの基礎知識	地方競馬教養センターの仕組みと役割を理解する
11(8月5日)	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬の観察	活躍する引退競走馬のセカンドキャリア構築現場を観察する
12(8月5日)	地方競馬教養センターの施設見学	教養センター生徒と受講生が交流の場を持ち、共通の話題として引退競走馬の役割について議論する
13(8月5日)	地方競馬教養センター生徒と受講生の懇談	騎手候補生が日々訓練を積み夢に向かって研鑽を積む教養センター施設を見学する（トレーニングルーム、訓練トラック走路、厩舎など）
14(8月5日)	まとめ	本授業の振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、引退競走馬のセカンドキャリアについて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する

【参考書】

人馬のウェルビーイング. 高見京太、佐野竜平編著, クリエイツかもがわ, 2025.

<https://www.creates-k.co.jp/genre/shakai/10196/>

【成績評価の方法と基準】

講義におけるショートレポート：30%

フィールドワークの取り組み：60%

最終レポート：10%

【学生の意見等からの気づき】

学生のレポートから、事前学習の充実が現場での理解を深める鍵となることが分かった。特に、騎手の訓練や引退競走馬のセカンドキャリアについての予備知識が不足していたとの意見があったため、事前講義や資料提供を強化する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、フィールドワーク先の受け入れ可能人数（20名）が受講人数の上限となります。
- ・受講を希望する学生は、4月8日（水）までに学習支援システムで仮登録を行ってください。
- ・仮登録を行った学生は、学習の目標や意気込みを記入して提出し、科目担当者が評価のうえ、受講者を確定します。
- ・結果通知後、受講が認められた学生の履修登録は大学が行います（学生自身による登録は不要です）。
- ・原則として、受講許可後の履修登録の削除はできません。開講日程（8月3日～5日）を十分に確認したうえで申し込んでください。

【2日目・3日目の詳細】

① 8月4日（火）

午前中に多摩キャンパス馬術部馬場にてフィールドワークを実施。講義終了後、キャンパスで昼食をとり、その後、教員と受講学生はバスで那須塩原市の地方競馬教養センターへ向かう。

（13:00 多摩キャンパス出発、15:30 教養センター到着予定）

② 地方競馬教養センター到着後

講義およびグループワークを実施し、併設の那須寮に宿泊。

③ 8月5日（水）

早朝よりフィールドワークを実施。その後、昼食を挟み、教養センターの生徒との交流会を行う。

④ すべてのプログラム終了後、帰路へ

14:30 教養センター発、以下のいずれかでバスを下車可能。

JR 久喜駅（15:30頃）

JR・京王 高尾駅（16:45頃）

多摩キャンパス（17:00頃）

⑤ 参加費

受講者が負担する宿泊費および食費（夕・朝・昼）は、一人あたり6,000円。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, Based on the philosophy of "Horses and Humans Well-being", the aims of this lecture are to understand the method of building a second career for retired racehorses promoted and learn the original philosophy of welfare and new prospects for diversity.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the ecology and evolution of horses and experience the dynamism of racehorses.
- B. Understand the method of building a second career for retired racehorses.
- C. Understand Horses and Humans Well-being.
- D. Discuss ways to link horses' and horses' health and welfare, bring about synergistic effects, and find a specific direction.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report in a lecture: 30%

Fieldwork efforts: 60%

Final report: 10%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク

大間 哲

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：1単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、藤沢市江ノ島周辺を対象に、観光と住民生活、防災、環境保全といった地域課題を、フィールドワークを通じて探究することを目的とします。

学生は、藤沢市防災政策課・観光課・フィルムコミッション等の職員、地域住民、観光客へのインタビューを実施し、実地観察と対話から地域の現状と課題を多角的に捉えます。社会調査法の基礎を学びながら、SDGsや災害リスクを踏まえた視点で、持続可能で安全な社会づくりに向けた提言を行う力を育成します。

【到達目標】

本授業では以下の力の習得を目指します：

1. 社会調査法に基づいた観察、聞き取り、分析の基本技法を実践的に活用できる。
2. 観光課職員・防災政策課職員・地域住民・観光客等とのインタビュー・非参加観察を通じて、多様な立場の声を引き出し、記録・考察できる。
3. SDGsや防災・環境保全の視点から、地域課題を構造的に捉え、利害関係者の視点を比較・分析できる。
4. 調査結果を根拠に、地域と共有可能な形で課題解決の提案を行い、発信できる技能を身につける。
5. 地域との対話を通じて、公共性と持続可能性に基づいた市民的な探究態度を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

授業形式：夏期集中5日間（対面授業100分×14コマ・フィールドワーク含む）

◆1日目 | 地域を知る・課題を捉える（3コマ）

<第1回>（対面）

・オリエンテーション

授業の目的、到達目標の共有

地域概要の講義、江ノ島・片瀬地区の観光とまちづくりの概要

地域構造、観光と住民生活、SDGsについて

<第2回>（対面）

・藤沢市防災政策課＋観光課＋湘南藤沢フィルムコミッション（藤沢市観光協会）からのビデオ又はオンラインによるレクチャー（インプット講義）

地域行政、観光政策、防災との両立、映像文化について

<第3回>（対面）

・グループワーク①：気づき共有と初期仮説の整理／個人テーマ案作成

地域課題の仮説化、探究テーマの発見

◆2日目 | 社会調査法の基礎と調査設計（3コマ）

<第4回>（対面）

・社会調査法の基礎（観察・インタビュー・記録の技法）

倫理、役割分担、質問形式の違い、質問の作成方法など

<第5回>（対面）

・防災・環境情報の読み取りの演習

ハザードマップ・土地利用図・過去災害の記録分析など

<第6回>（対面）

・グループワーク②：観察シート・インタビューガイド作成

観察箇所、観察対象物の設定

調査対象者別に複数種類の質問票を準備、想定問答作成

◆3日目 | フィールドワーク本番（現地調査）（5コマ）

<第7回>（フィールドワーク 午前①）

・藤沢市役所を訪問。

藤沢市観光課＋湘南藤沢フィルムコミッション、藤沢市防災政策課等の職員から、行政の視点を聴取。

<第8回>（フィールドワーク 午前②）

・江ノ島・片瀬地区 観光拠点の観察（地形・人工構造物・海岸・避難表示・動線・植生保護ゾーン）

案内表示・避難経路・混雑状況・防潮施設・海岸整備状況・自然保護エリアの観察

主に、片瀬江ノ島駅周辺～江ノ島弁天橋～島内、観察シート使用、写真記録も実施

～昼休憩・昼食（自由行動）地元飲食店の利用可（観察の一環として）

<第9回>（フィールドワーク・午後①）

・江ノ島・片瀬地区 観光拠点でのインタビュー

観光客の状況の観察と、簡易インタビュー

駅前・展望台周辺などで国内外の観光客の様子や状況の観察、観光客に短時間聞き取り

<第10回>（フィールドワーク・午後②）

・地域住民・事業者へのインタビュー

商店街・飲食店等（事前許可または飛び込み方式）

地域住民（事前許可）

<第11回>（フィールドワーク・夕方）

・ふりかえり・記録整理・グループ間共有

気づきをKJ法等で整理／後日の分析準備

◆4日目 | 課題の構造化と提言の準備（2コマ）

<第12回>（対面）

・グループワーク③：調査結果の分析と課題の可視化

発見された課題をステークホルダーごとに整理／因果構造化

<第13回>（対面）

・グループワーク④：ポスター・プレゼン資料の作成

提言と根拠を結びつけた成果物を視覚的に構成する

◆5日目 | 発表・評価・ふりかえり（1コマ）

<第14回>（対面）

・成果発表（ポスター発表＋質疑応答）

学生間での発表・フィードバック

観光課・観光協会等現地協力者にオンラインで招待しプレゼンを中継することも検討する

・ふりかえり／自己・相互評価／学びの整理

学びのふりかえり、自分の受講目標の達成の評価

※真夏で猛暑の時期であることに鑑み、一部の授業をオンラインで行う可能性がある。フィールドワークの日に猛暑／天候不順の場合は、江ノ島水族館等の施設の利用も考慮する。

※台風等極端な悪天候の場合、学生の安全のため3日目のフィールドワークを4日目にを行い、4日目と5日目の内容を5日目に纏めて行う等、フレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(8月3日)	オリエンテーション 対象地域についての基礎知識習得	・本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワークを実施する際の受講ポイントを理解する。 ・地域概要の講義、江ノ島・片瀬地区の観光とまちづくりの概要 ・地域構造、観光と住民生活、SDGsについて。
2(8月3日)	対象地域についてのインプット講義	・地域行政、観光政策、防災との両立、映像文化について。 ・（可能であれば）藤沢市職員からのビデオ又はオンラインレクチャー。

3(8月3日)	グループワーク①： 気づき共有と初期仮説の整理／個人テーマ作成	地域課題の仮説化、探究テーマの発見。
4(8月4日)	社会調査法の基礎	・観察・インタビュー・記録の技法を学ぶ。 ・社会調査の倫理、役割分担、質問形式の違い、質問の作成方法などについて。
5(8月4日)	防災・環境情報の読み取りの演習	・ハザードマップ・土地利用図・過去災害の記録分析など。
6(8月4日)	グループワーク②： 観察シート・インタビューガイド作成	・観察箇所、観察対象物の設定。 ・調査対象者別に複数種類の質問票を準備、想定問答作成。
7(8月5日)	フィールドワーク 午前①：藤沢市役所訪問	・藤沢市役所を訪問。 藤沢市役所庁舎内（予定）にて防災政策課・観光課等の職員より行政の視点を聴取。
8(8月5日)	フィールドワーク 午前②：江ノ島・片瀬地区の観察 ＋昼休憩	・江ノ島・片瀬地区 観光拠点の観察（地形・人工建造物・海岸・避難表示・動線・植生保護ゾーン）。 案内表示・避難経路・混雑状況・防潮施設・海岸整備状況・自然保護エリアの観察。 ・主に、片瀬江ノ島駅周辺～江ノ島弁天橋～島内、観察シート使用、写真記録も実施。 ～昼休憩・昼食（自由行動）地元飲食店の利用可（観察の一環として）。
9(8月5日)	フィールドワーク・午後①：江ノ島・片瀬地区でのインタビュー	・江ノ島・片瀬地区 観光拠点でのインタビュー。 観光客の状況の観察と、簡易インタビュー。 駅前・展望台周辺などで国内外の観光客の様子や状況の観察、観光客に短時間聞き取り。
10(8月5日)	フィールドワーク・午後②：商店街や地域住民へのインタビュー	・地域住民・事業者へのインタビュー。 ・商店街・飲食店等（事前許可または飛び込み方式） ・地域住民（事前許可）
11(8月5日)	フィールドワーク・夕方：ふりかえりと記録整理	・フィールドワークのふりかえり。 ・記録整理・グループ間共有気づきをKJ法等で整理／後日の分析準備。
12(8月6日)	グループワーク③： 調査結果の分析と課題の可視化	・引き続き、フィールドワークでの気づきをKJ法等で整理／分析。 ・発見された課題をステークホルダーごとに整理／因果構造化。
13(8月6日)	グループワーク④： ポスター・プレゼン資料の作成	提言と根拠を結びつけた成果物をポスター・プレゼン資料等で、視覚的に構成する。
14(8月7日)	発表・評価・ふりかえり	・成果発表（ポスターorパワポでの発表＋質疑応答） （学生間での発表・フィードバック） 防災政策課・観光課・観光協会等現地協力者にフィードバック。（オンラインで招待しプレゼンを中継することも検討） ・ふりかえり／自己・相互評価／学びの整理。 （学びのふりかえり、自分の受講目標の達成の評価）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は合わせて、各1時間を標準とします。

・必要に応じて、レポートや調査課題等の提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定・配布する

【参考書】

必要に応じて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（グループワークの成果物・小レポート等）：30%

フィールドワークへの取り組み：60%

最終発表・課題：10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

市ヶ谷での授業日

・ノートパソコン又はタブレット（持ち歩きができる物）、スマホ、

ノート、筆記用具

フィールドワーク日

・（上記に加え）

必要に応じて暑さ対策のもの

水分補給のためのボトル、帽子、タオル、着替え等

交通費、食費等

【その他の重要事項】

・本授業は、フィールドワークとしての受け入れ可能人数（10名程度）を上限とします。

・受講を希望する学生は、4月8日（水）までに学習支援システムで仮登録を行ってください。また、仮登録を行った学生は、学習の目標や意気込みを文書にして4月9日（木）締め切りで提出してください（提出方法は、学習支援システム等で指定します）。提出物を科目担当教員が評価のうえ、4月13日（月）を目途に受講者を確定します。
・結果通知後、受講が認められた学生の履修登録は大学が行います（学生自身による登録は不要です）。

・原則として、受講許可後の履修登録の削除はできません。開講日程（8/3～7）を十分に確認したうえで申し込んでください。

・フィールドワーク日（8/5を予定。8/6は予備日）は朝～夜まで。それ以外の日は、午後3限～5限の授業です。

・8/5が台風等の悪天候の場合、8/6にフィールドワークを振り替える可能性があります。その場合は、8/6が朝～夜までの予定になります。

・また、悪天候が続いた場合は、フィールドワークが屋内のみになったり、最悪はフィールドワークができない可能性もあります。その場合は、適切なワークやリモートのインタビューといったもので代替します。

・したがって、8/5、8/6、8/7の授業終了時間は、天候その他の理由によりフレキシブルに変更する可能性があります。授業終了時間後の予定は極力空けておいてください。

【8/5 フィールドワーク日について】

① 8月5日（水）の主な行程（予定）

朝：JR藤沢駅集合（8:30又は9:00頃を予定）

藤沢市役所にて、職員の講義＋インタビュー（9:00又は9:30頃開始予定）

江ノ島・片瀬地区での観察（11:00～12:00頃を予定）

（昼食）

インタビュー調査（13:00～16:30頃を予定）

ふりかえりと記録（16:30～18:30頃を予定）

その後希望者は、夕食等をとって解散

（参考：東京駅→藤沢駅 JR東海道線で約50分。新宿駅→藤沢駅 小田急江ノ島線急行で約80分）

② 注意事項：

・当日は、猛暑のシーズンのため、帽子等や水分補給用のボトル等を含め、暑さ対策を十分に準備してください。

③ 悪天候等への対策：

・8/5当日が悪天候等の場合、8/6がフィールドワーク日になる可能性があります。その場合、その日が朝～夜までの時間となります。
・暑さが極端に厳しい場合、江ノ島水族館等の屋内施設も併用する可能性があります。

・フィールドワーク当日の行程は、天候や全員の体力・体調等を考慮し、柔軟に行動を変更します。

④ 連絡手段：

・フィールドワーク当日の連絡手段のために、LINE等でのグループを作って互いに連絡がとれる体制を整える予定です。（使用するシステムは、初日に相談をして決めます）。

⑤ 費用

受講者が負担する費用：藤沢駅までの往復・現地での移動費、水族館他の施設に利用費、食費（朝・昼・夜・おやつ）

＝＝＝

当授業の教員は、気象予報士・防災士資格を有し、各地での気象・防災講座やセミナーを行っている、実務経験がある教員による授業です。

【Outline (in English)】

◆Course Outline：

This course focuses on exploring regional challenges in the Enoshima area of Fujisawa City through fieldwork. Key topics include the coexistence of tourism and residential life, disaster risk reduction, and environmental conservation.

Students will conduct on-site observations and interviews with local stakeholders, including staff from the Fujisawa City Disaster Management Division, Tourism Division, and the Shonan Fujisawa Film Commission, as well as local residents and tourists.

By applying the fundamentals of social research methods and incorporating perspectives from the SDGs and disaster risk, students will develop the ability to make constructive proposals for sustainable and resilient community development.

◆Learning Objectives:

By the end of the course, students will be able to:

1. Apply basic social research methods such as field observation, interviews, and analysis in practical settings.
2. Conduct and record interviews and non-participant observations with a range of stakeholders, including city officials, residents, and tourists.
3. Analyze regional issues from the perspectives of the SDGs, disaster prevention, and environmental sustainability, and compare the viewpoints of various stakeholders.
4. Develop and present actionable proposals based on empirical findings in a format that can be shared with local communities.
5. Cultivate a civic and inquiry-based attitude through engagement with real-world social issues in local contexts.

◆Learning Activities Outside of Classroom:

After each class session, students are required to submit a short written assignment that reflects on their learning and prepares for upcoming activities.

◆Grading Criteria / Policy

- Active participation in class discussions and activities (not just attendance): 30%
- Performance and engagement during fieldwork: 60%
- Final report or presentation: 10%

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携PBL (アドバンス)

高田 朝子、菅谷 正美、東 隆志、上原 航平

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの地域に焦点をあて、地域が抱える課題に対して学生の視点から何らかのソリューションをつくりあげる講義と演習の組み合わせによる実践的な授業です。本年度は佐賀県鹿島市にてフィールドワークを行います。

5月16日の市ヶ谷キャンパスでのキックオフからはじまり、9月2日から5日まで実施されるフィールドワークを経て、10月24日の市役所への発表を経て授業は終了します。変則的な日程である事に注意してください。

受講生は以下の4つのプロセス全てに参加することが求められます。

- ①事前講義に参加すること
- ②9月2～5日に行われる現地での演習授業に臨むこと、そのためのグループワークを行うこと
- ③演習授業後のまとめの講義に参加すること、プレゼンテーションのためのグループワークに参加すること
- ④自治体の首長もしくは相当の人びとの前で自分達のソリューションやアイデアに関するプレゼンテーションを行うこと

本授業の目標は、二つあります。第一に、日本の地方都市の持つ課題を理解すること。第二に与えられた課題に対して自分達なりの仮説をつくり、課題のソリューションもしくはそれに相当するアイデアを考え、それらを言語化、可視化し相手が分かるように説明する経験をする事、そしてその能力を身につけることです。

与えられた課題に対して、手をつくして資料を調べ、チームでアイデアを練り上げるためのディスカッションをし、その後現地に向き実際にどうなっているのかを体験することで、現実の世界と頭の中で考えることの違いを実体験します。その上で、どのように課題解決の道筋をつくりあげるかを実践的に学びます。机上で考えたことと、実際に現地に行き、現地の人びとと話し、自分の目で確認し、また考えるという一連のプロセスを経ることで、実学としての地方を学び課題にアプローチします。

【到達目標】

日本が直面している現状を理解すること。特に地方都市において人口減少がどのように進み、それがどのように人びとの生活に影響をおよぼしているのかを理解する事を求めます。その上で、与えられた課題に対して、自分達で考え、調べ、ディスカッションをし、そして現地で現実を体験し、試行錯誤を繰り返す中で自分達なりの課題解決の方法やアプローチのやり方を獲得することがゴールです。加えて、学外の人と関わるためのビジネスマナーを身につけること、プレゼンテーションのやり方を身につけることも副次的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VII」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

市役所から提示される同市が抱える課題をグループに分かれて調べ、課題解決のための仮説をつくり、討議し、現地に行きソリューションをブラッシュアップし、学生の視点から課題解決の提案を試みます。具体的な日程としては

- 1) 事前座学は土曜日の3, 4限@市ヶ谷キャンパスで実施します。
- 2) 現地フィールドワークは9月2日から5日の4日間実施します。

3) 事後座学は9月26日土曜日3, 4限@市ヶ谷キャンパスで実施します。

4) この他に各グループでのグループワークの時間が発生します。

5) 発表会10月24日

最初に座学を行います。座学において課題に対して、解決のための周辺情報をまず自分で調べます。そして、グループで調べディスカッションをし、課題解決のために活動し素案を作ります。その間に市役所とのウェブでの打合せも行います。

夏休みに現地実習を経て、自分達のアプローチの妥当性を検討し、より現実的な提案に近づけます。

その後、事後座学として、発表前のリハーサルならびにプレゼンテーションのブラッシュアップを行います。

希望するグループについてはプレゼンテーションのワークショップを実施します。

最後に本学にて、鹿島市に対して、課題に対する自分達のソリューションについての発表を行います。

【履修について】

本授業の履修を希望する者は4月17日（金）17時までに学習支援システムで仮登録すること。

人数等を踏まえ、選抜を行う可能性があります。

選抜については、4月22日～24日頃を目安に学習支援システムを通じて連絡します。

【費用について】

本授業の受講者には、フィールドワークにおける宿泊料として最大約2万円程度を負担していただきます。詳しくはキックオフの際に説明します、

（本授業は法政大学後援会より助成を受けており、上記金額を超える分の宿泊料や航空券代は助成金で賄われます。）

その他、事前・事後学習のために市ヶ谷キャンパスに通う交通費や、フィールドワークに係る現地交通費、食費等は学生の自己負担となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	5 対象地域の紹介と授業のやり方	必ず出席のこと。対象地域の紹介と課題について説明を行う。
キックオフ		その後グループ編成を行う。
第2回	5 地域の実地、私達の国のおかれている状態、どのように調べるか	地域を取り巻く環境を知る。課題解決のアプローチ方法について学習する。
第3回	6 課題解決のアプローチと作法①	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ①
第4回	6 課題解決のアプローチと作法②	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ②
第5回	6 事前調査	現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第6回	7 事前調査	進捗報告 現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第7回	9 現地演習①	進捗報告 現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第8回	9 現地演習②	進捗報告 現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第9回	9 現地演習③	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第10回	9 現地演習④	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第11回	9 現地演習⑤	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う

第12回 9月5日	現地演習⑥	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第13回 9月26日	リハーサルとプレゼンテーションブラッシュアップ	最終報告に向けてプレゼンテーションのブラッシュアップ
第14回10月24日	発表	市役所に対してソリューションの発表を行う各自の報告レポートならびに、グループ発表の際のパワーポイントの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多くのグループワークが発生する。授業外で課題へのソリューションについてのディスカッション、リサーチをする必要があります。グループワークのやり方については、参加者に任せますが、ウェブを有効活用して下さい。

最低でも、大体演習前10時間程度、演習後10時間程度のグループワークが必要となると考えられています。各自時間を確保して下さい。この他に、希望者にはプレゼンテーションの資料作成などのワークショップの機会も作ります。各グループには中小企業診断士の教員がサポーターとしてつきます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜示す

【参考書】

適宜示す

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

座学でのレポート 20%

課題へのソリューション並びにプレゼンテーション（S & P） 40%

注意

座学でのレポートは個人で提出

課題へのソリューションとプレゼンテーションは、グループで提出します。ただし、フリーライダーを防ぐために、プレゼンテーション後にグループメンバーでお互いの貢献度の評価を行います。この評価表は教員に直接提出されます。

その結果は平常点ならびに、S & Pの素点に加味されるので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

自治体からの課題の設定を早めに提示するようにしました。

【Outline (in English)】

Focusing on a single region, this is a practical class that combines lectures and exercises to create solutions to regional issues from the students' perspectives. This year, fieldwork will be conducted in Matsue City, Shimane Prefecture. Matsue City is the birthplace of Hosei University's first prime minister (current president).

The course will begin with a kick-off event at the Ichigaya Campus on May 24th, and will continue with fieldwork from August 4th to 7th, concluding with a presentation at the city hall in early October (date to be confirmed). Please note that the schedule is irregular.

Students are required to participate in all four processes below.

- 1) Participate in the preliminary lectures
- 2) Attend the on-site training course to be held from August 4th to 7th, and carry out group work for this purpose
- 3) Participate in the summary lecture after the training course, and participate in group work for the presentation
- 4) Make a presentation on their solutions and ideas in front of the leaders of the local government or their equivalents

By researching the given issues, discussing ideas as a team, and then going out into the field to experience what is actually happening, you will experience the difference between thinking in your head and thinking in the real world. You will then learn how to practically create a path to solving issues.

Learning outside of class time

Students will be required to discuss and research solutions to issues outside of class. I will leave it up to the participants to decide how to conduct group work, but please make good use of the web.

It is expected that at least 10 hours of group work will be required before and 10 hours after the exercise.

You will be required to do a lot of group work outside of class time.

Learning Objectives

There are two learning objectives for this class. The first is to understand the issues faced by local cities in Japan. The second is to create your own hypotheses for the given issues, think of solutions or ideas that correspond to the issues, and experience and acquire the ability to verbalize and visualize these ideas so that they can be understood by others.

Grading

Classwork: 40%

Classroom report: 20%

Solutions and presentations (S&P) for the issues: 40

Notes

Reports for the classroom lectures are submitted individually. Solutions to the assignments and presentations are submitted as a group. However, in order to prevent free-riders, after the presentation, the group members evaluate each other's contribution. This evaluation form is submitted directly to the teacher.

Please note that the results will be added to the regular points and the S&P raw score.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：土2/Sat.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、金融との関わりは避けられず、生活スキルとして「金融リテラシー（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは非常に重要です。本講義では、金融に関する基礎知識を体系的に学び、人生設計や生活における重要事項を理解するとともに、必要な情報を自ら収集・比較・検討し、適切に判断できる実践的な力を養います。

【到達目標】

・経済的自立とより良い生活のために必要な経済・金融の基礎知識を理解する。
・学んだ知識を活用し、適切な金融商品やサービスを選択できる判断力を身につける。
・将来の生活設計（ライフプラン）を自ら作成できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はオンライン（ZOOM）で実施します。講師が交代することがあります。毎講義後、学習支援システムよりリアクションペーパーを提出していただきます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから質問をいくつか取り上げ、全体に対して回答を行います。この回答については、学習支援システムにも掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性②人生とお金
第2回	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐとは②仕事を考える③額面収入と手取り収入④海外で働く
第3回	生活に関わる税金	①税金について②日々の生活に関わる税金③収入に関わる税金④その他の税金
第4回	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②ライフイベントを考える③キャッシュフロー表の作成
第5回	ライフプランを描く②	①キャッシュフロー表の作成②キャッシュフロー表の分析
第6回	お金を借りる①	①お金を借りる②キャッシュレス決済③クレジットカードの上手な使い方④トラブルの事例
第7回	お金を借りる②	①ローンについて②住宅ローン③自動車ローンとリース④その他のローンや分割払いなど⑤多重債務
第8回	お金と経済	①お金と経済の関係②景気について③物価・金利と外国為替

第9回	お金を増やす①	①お金を増やす方法②貯蓄③金融商品の説明④その他の投資（注意喚起）
第10回	お金を増やす②	①投資について②投資のリスクコントロール③NISAとiDeCo
第11回	リスクに備える①	①保険について②損害保険について③車やバイク、自転車の保険④家の保険（火災保険・地震保険）⑤海外旅行保険
第12回	リスクに備える②	①社会保障と生命保険 ②死亡に備える（死亡保障）③病気やケガに備える（健康保険と医療保障）④老後に備える（年金と貯蓄型保険）⑤その他の備え（介護・失業）⑥保険契約の留意点
第13回	トラブルに強くなる	①消費者被害・トラブルとは②消費者被害・トラブルの事例③消費者を守る制度④トラブルに遭わないために
第14回	ライフプランを描く③	①ライフプランの復習②ライフプランの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習は、それぞれ2時間程度を必要とする内容を設定しています。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読んでください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各回の講義資料については学習支援システムに事前に掲載予定です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト1回（30%）および最終テスト（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった感想を多くいただきました。2026年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、PCを用意してください。

【その他の重要事項】

・学年・学部・学科・専攻を問わず、すべての学生が受けられるレベルを設定しています。前提科目はありません。
・〈注意〉2026年度春学期金曜3限に対面で開講する【授業コード：A9944 科目名：社会連携講座（ベーシック）生活に関わるお金の知識講座】は本講義と同一の内容です。開講時限・授業形態を確認して選択してください。

【Outline (in English)】

In present-day, having “Financial Literacy”, the knowledge and skills needed to make important financial decisions, is important. This course provides necessary knowledge and information to have Financial Literacy. This course is provided by AEON Financial Service Co., Ltd. For free.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows:

- ・ To understand the foundation of economics and financial services related to your own life for making proper decisions.
- ・ To gain the knowledge for making your own life planning including monetary planning.

【Learning activities outside of classroom】

a) The preparation and review of each class are expected to spend 2 hour each.

b) Text and handouts will be available on WebClass.

【Grading Criteria /Policy】

・ Examinations: 70%

Two examinations will be conducted online via the learning support system, WebClass.

a) Midterm Exam: 30%

b) Final Exam: 40%

• Submission of Reaction Paper: 30%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

佐野 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学校友会（本学を卒業したOBOGを中心に構成される組織）及び法政財界人倶楽部（本学卒業の上場企業取締役経験者を中心に構成される組織）との連携のもと開講される、オムニバス形式の講義です。豊かなビジネス経験を持って高い地位を築き、仕事と母校への情熱を有する校友会・倶楽部メンバー（卒業生）が集まって講師陣となり、そのキャリアの中で体得した「実践知」の内容やノウハウについて、様々な事例や出来事を示しながら自らの言葉で解りやすく解説します。これは卒業生が現役学生にエールを送る場であり、履修者が卒業生の経験を共有、理解することを通して、自らの今後のキャリア形成について独自かつ具体的に考える機会となります。「企業における仕事と成長Ⅰ」では、将来のキャリア形成を考えるうえで役立つ「実践知」について、豊かなビジネス経験を持つゲストスピーカー（いずれも東証プライム上場企業など有名大企業の現社長もしくは元社長）をお招きし、オムニバス講義形式で学びます。

【到達目標】

就職活動や卒業を控えた学生は、自分が卒業後のビジネス社会で「どう働き、どう成長していくのか」具体的なイメージが掴みきれず、漠然とした不安を感じているのではないかと。また、学生らが現在思いを巡らす将来像、将来計画そしてそのための取り組みや努力の正しさについて、日々悩んでいるのではないかと。この社会連携講座は、そうした在学生の不安感に、それを乗り越え実績を積み重ねた卒業生らが自らの言葉で応えようとするものです。その意味で、この講義の目標は「学生と卒業生の対話」であり、履修者の到達目標としては「ビジネス界の先輩（講師となる卒業生）が有する企業での経験を共有し、自らの意見を述べ、コミュニケーションを深めていく能力（コミュニケーション能力）の向上」となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

複数（4名）の卒業生講師によるオムニバス形式のリレー講義です。それぞれの講師が3週分の授業を受け持ち、①自分自身のキャリアの振り返り（第1週）、②自らが勤務した企業の紹介及び業界研究（第2週）、③「社内文書」を通して学ぶ「実践知」：論理構成・ビジネス数学・統計ノウハウ（第3週）の三つのセッションを進めて行きます。なお、全体を通して、本学校友会に関わる経営学部の教員がMCを務めます。以下、授業計画にある「ビジネス」（業界）は、担当予定者の事業スケジュールの都合により変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	セッションの概要と担当講師（卒業生）の紹介、それぞれの業界に関する解説	MCを務める教員（経営学部教授）が、リレー講義全体の流れ及び、講義理解を深める上で必要な基礎的知識について解説します。

講義①その1	住宅メーカー・不動産ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義①その2	住宅メーカー・不動産ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義①その3	住宅メーカー・不動産ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義②その1	コンビニエンスストア・流通ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義②その2	コンビニエンスストア・流通ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義②その3	コンビニエンスストア・流通ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義③その1	政策金融機関と独立行政法人での仕事とキャリア	政府機関の元副理事長（卒業生）による講義です。
講義③その2	政策金融の制度と市場構造、機関研究	上記機関の関係者をお招きして行う講義です。
講義③その3	政策金融機関で働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義④その1	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の副社長（卒業生）による講義です。
講義④その2	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義④その3	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。

授業内試験	論述試験の実施	期末試験の実施に合わせて、講義内容の振り返りを行います。
-------	---------	------------------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師の企業について、ホームページ等の企業情報を読み込んでおくことを求めます。授業の準備・復習時間は各2時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末の提出レポートによる評価試験（50％）、各講義①～④の「その3」への貢献度（50％）で成績評定を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義内における随時の質疑応答など、講師と学生間のコミュニケーションをさらに充実強化させていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This Alumni Speaker Series brings alumni back to campus to share their “practical wisdom” on a variety of topics, such as business literacy, prioritizing multiple passions and finding unique ways to develop career. The series aims to encourage students to envisage their own career as they listen to career talks by the lecturers.

【Learning Objectives】

By the end of the series, students can develop the career image and evaluate what they understand the direction of their self-study. Through this series, students expand their scope of career target.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the series content.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination (50%) and in-class contribution(50%)

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

佐野 哲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学校友会（本学を卒業したOBOGを中心に構成される組織）及び法政財界人倶楽部（本学卒業の上場企業取締役経験者を中心に構成される組織）との連携のもと開講される、オムニバス形式の講義です。豊かなビジネス経験を持って高い地位を築き、仕事と母校への情熱を有する校友会・倶楽部メンバー（卒業生）が集まって講師陣となり、そのキャリアの中で体得した「実践知」の内容やノウハウについて、様々な事例や出来事を示しながら自らの言葉で解りやすく解説します。これは卒業生が現役学生にエールを送る場であり、履修者が卒業生の経験を共有、理解することを通して、自らの今後のキャリア形成について独自かつ具体的に考える機会となります。「企業における仕事と成長Ⅱ」では、将来のキャリア形成を考えるうえで役立つ「実践知」について、豊かなビジネス経験を持つゲストスピーカー（いずれも東証プライム上場企業など有名大企業の現社長もしくは元社長）をお招きし、オムニバス講義形式で学びます。

【到達目標】

就職活動や卒業を控えた学生は、自分が卒業後のビジネス社会で「どう働き、どう成長していくのか」具体的なイメージが掴みきれず、漠然とした不安を感じているのではないか。また、学生らが現在思いを巡らす将来像、将来計画そしてそのための取り組みや努力の正しさについて、日々悩んでいるのではないか。この社会連携講座は、そうした在学生の不安感に、それを乗り越え実績を積み重ねた卒業生らが自らの言葉で応えようとするものです。その意味で、この講義の目標は「学生と卒業生の対話」であり、履修者の到達目標としては「ビジネス界の先輩（講師となる卒業生）が有する企業での経験を共有し、自らの意見を述べ、コミュニケーションを深めていく能力（コミュニケーション能力）の向上」となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

複数（4名）の卒業生講師によるオムニバス形式のリレー講義です。それぞれの講師が3週分の授業を受け持ち、①自分自身のキャリアの振り返り（第1週）、②自らが勤務した企業の紹介及び業界研究（第2週）、③「社内文書」を通して学ぶ「実践知」：論理構成・ビジネス数学・統計ノウハウ（第3週）の三つのセッションを進めて行きます。なお、全体を通して、本校友会に関わる経営学部の教員がMCを務めます。以下、授業計画にある「ビジネス」（業界）は、担当予定者の事業スケジュールの都合により変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
リフレクション	セッションの概要と担当講師（卒業生）の紹介、それぞれの業界に関する解説	MCを務める教員（経営学部教授）が、リレー講義全体の流れについて解説するとともに、春学期の振り返りを行います。

講義①その1	テーマパーク・不動産ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義①その2	テーマパーク・不動産ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義①その3	テーマパーク・不動産ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義②その1	インフラ・設備工事ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義②その2	インフラ・設備工事ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義②その3	インフラ・設備工事ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義③その1	総合建材メーカー・空間ビジネスと企業での仕事とキャリア	政府機関の元副理事長（卒業生）による講義です。
講義③その2	総合建材メーカー・空間ビジネスの市場構造、機関研究	上記機関の関係者をお招きして行う講義です。
講義③その3	総合建材メーカー・空間ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義④その1	インフラ・建設土木工事ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の副社長（卒業生）による講義です。
講義④その2	インフラ・建設土木工事ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義④その3	インフラ・建設土木工事ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
授業内試験	論述試験の実施	期末試験の実施に合わせて、講義内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師の企業について、ホームページ等の企業情報を読み込んでおくことを求めます。授業の準備・復習時間は各2時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末の提出レポートによる評価試験（50%）、各講義①～④の「その3」への貢献度（50%）で成績評定を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義内における随時の質疑応答など、講師と学生間のコミュニケーションをさらに充実強化させていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This Alumni Speaker Series brings alumni back to campus to share their “practical wisdom” on a variety of topics, such as business literacy, prioritizing multiple passions and finding unique ways to develop career. The series aims to encourage students to envisage their own career as they listen to career talks by the lecturers.

【Learning Objectives】

By the end of the series, students can develop the career image and evaluate what they understand the direction of their self-study. Through this series, students expand their scope of career target.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the series content.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination (50%) and in-class contribution(50%)

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：高田 朝子、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、金融との関わりは避けられず、生活スキルとして「金融リテラシー（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは非常に重要です。本講義では、金融に関する基礎知識を体系的に学び、人生設計や生活における重要事項を理解するとともに、必要な情報を自ら収集・比較・検討し、適切に判断できる実践的な力を養います。

【到達目標】

- ・経済的自立とより良い生活のために必要な経済・金融の基礎知識を理解する。
- ・学んだ知識を活用し、適切な金融商品やサービスを選択できる判断力を身につける。
- ・将来の生活設計（ライフプラン）を自ら作成できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は対面にて実施します。講師が交代することがあります。毎講義後、学習支援システムよりリアクションペーパーを提出していただきます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから質問をいくつか取り上げ、全体に対して回答を行います。この回答については、学習支援システムにも掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性②人生とお金
第2回	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐとは②仕事を考える③額面収入と手取り収入④海外で働く
第3回	生活に関わる税金	①税金について②日々の生活に関わる税金③収入に関わる税金④その他の税金
第4回	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②ライフイベントを考える③キャッシュフロー表の作成
第5回	ライフプランを描く②	①キャッシュフロー表の作成②キャッシュフロー表の分析
第6回	お金を借りる①	①お金を借りる②キャッシュレス決済③クレジットカードの上手な使い方④トラブルの事例
第7回	お金を借りる②	①ローンについて②住宅ローン③自動車ローンとリース④その他のローンや分割払いなど⑤多重債務
第8回	お金と経済	①お金と経済の関係②景気について③物価・金利と外国為替

第9回 お金を増やす①

①お金を増やす方法②貯蓄③金融商品の説明④その他の投資（注意喚起）

第10回 お金を増やす②

①投資について②投資のリスク

第11回 リスクに備える①

①保険について②損害保険について③車やバイク、自転車の保険④家の保険（火災保険・地震保険）⑤海外旅行保険

第12回 リスクに備える②

①社会保障と生命保険②死亡に備える（死亡保障）③病気やケガに備える（健康保険と医療保障）④老後に備える（年金と貯蓄型保険）⑤その他の備え（介護・失業）⑥保険契約の留意点

第13回 トラブルに強くなる

①消費者被害・トラブルとは②消費者被害・トラブルの事例③消費者を守る制度④トラブルに遭わないために

第14回 ライフプランを描く③

①ライフプランの復習②ライフプランの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習は、それぞれ2時間程度を必要とする内容を設定しています。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読んでください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各回の講義資料については学習支援システムに事前に掲載予定です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト1回（30%）および最終テスト（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった感想を多くいただきました。2026年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

・学年・学部・学科・専攻を問わず、すべての学生が受けられるレベルを設定しています。前提科目はありません。・〈注意〉2026年度春学期土曜2限にオンラインで開講する【授業コード：A9941 科目名：社会連携講座（ベーシック）生活に関わるお金の知識講座】は本講義と同一の内容です。開講時限・授業形態を確認して選択してください。

【Outline (in English)】

In present-day, having “Financial Literacy”, the knowledge and skills needed to make important financial decisions, is important. This course provides necessary knowledge and information to have Financial Literacy. This course is provided by AEON Financial Service Co., Ltd. For free.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows:

- ・To understand the foundation of economics and financial services related to your own life for making proper decisions.
- ・To gain the knowledge for making your own life planning including monetary planning.

【Grading Criteria /Policy】

- ・Examinations: 70%

Two examinations will be conducted online via the learning support system, WebClass.

a) Midterm Exam: 30%

b) Final Exam: 40%

- ・Submission of Reaction Paper: 30%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）
：特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プラン
ナーズ協会

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生には様々な場面でお金が必要となり、今後、結婚・育児・住宅取得・老後といった場面においては大きな支出が伴ってきます。本授業では、パーソナルファイナンスについて学習することで、人生における支出について個人が責任と計画性を持って行い、また貯蓄や運用、リスクマネジメントを意識的に行う必要があることを学びます。

本授業は、日本FP協会（日本FP協会：<https://www.jafp.or.jp/>）の寄付講座です。

【到達目標】

- ①知識・技能の観点：ファイナンシャル・プランニングの意義・役割に関する知識を身に付けている
- ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点：自分自身の夢や目標を実現させるために必要なファイナンシャル・プランニングに関する思考力・判断力・表現力を身に付けることができる
- ③主体的な態度の観点：個人の生活や家計に視点をおきながら金融知識の向上を図ることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心としますが、授業内で個人ワークもしくはグループワーク、グループディスカッションを実施します。ワークやディスカッションの内容について、グループの代表者等に発表をお願いすることがあります。
- ・毎回、学習支援システムで小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2	ライフプランニング	収入と支出、様々な職業選択、給与明細の見方
3	社会保障制度①	社会保障の4つの柱、社会保険の5分野、年金制度
4	社会保障制度②	健康保険、雇用保険、介護保険
5	税制度の基礎知識①	日本の税制度、税の種類、所得税の基礎知識、住民税、源泉徴収票の見方
6	税制度の基礎知識②	税との付き合い方（アルバイトと税、iDeCo・NISAによる税額控除）
7	リスクと保険	個人を取り巻くリスク、民間保険商品（生命保険、損害保険等）の概要

8	ライフプランニングとファイナンシャル・プランニングの手法①	人生の3大資金（教育、住宅、老後）、各種ローン（住宅ローン、消費者ローン、奨学金等）
9	ライフプランニングの手法②	ライフプランとキャッシュフロー表
10	金融経済の基礎知識①	金融経済の仕組み、日本経済の動向と家計への影響（時事ニュース）、貯蓄、金利（単利と複利）
11	金融経済の基礎知識②	外貨預金、債券、株式、投資信託、リスクとリターン、長期分散積立投資（NISA, iDeCo含む）
12	不動産・相続の基礎知識	不動産の法律、登記、規制、税金、物件情報の見方、相続の考え方、遺言、相続税と贈与税
13	消費生活と契約	消費者保護の法律、契約締結とクーリングオフ制度、悪質商法
14	ライフプランニングの手法②、総括	キャッシュフロー表の見直し方、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・予習：教科書・参考書を用い、講義に先立ち該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておくこと。
- ・復習：授業内容を整理し、教科書・参考書を確認しながら理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

『ファイナンシャル・プランニング入門－for Students－』日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
※講義内で無償配付します。

【参考書】

『学生生活マナー&キャリア』日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
※講義内で無償配付します。

マ ネ ビ タ : <https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/e-learning/>
※本授業の予習復習に最適な内容ですので受講（無料）をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

小テストの結果を含めた毎回の授業の平常点（30％）に加え、試験（40％）及び授業期間中に課されるレポート（30％）によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションを積極的に取り入れた授業構成としています。自ら考え発言するプロセスを通じ、自己理解を深めながら学習内容を自分自身の課題として取り組めるよう配慮しています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材の配付や小テスト及びレポートの提出は学習支援システムで行います。
- ・授業内で電卓を使用することがあります（スマートフォンで代替可）。

【その他の重要事項】

- ・ファイナンシャル・プランナー（CFP(R)認定者）としての実務経験が豊富な講師が、実務家の視点を取り入れた実用的な授業を実施します。
- ・質問は授業の前後に教室で受け付けます。
- ・本授業はFP技能検定の受検を目的、目標とするものではありませんが、ファイナンシャル・プランナー資格に興味のある方の受講も歓迎します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Money is needed at various times in life and large expenditures in the future in such situations as marriage, child rearing, home acquisition, and retirement will be needed. By study of personal finance, students in this course will learn that individuals need to take responsibility and plan for their expenses in life, and that they need to be conscious about saving, investing, and risk management.

【到達目標（Learning Objectives）】

① Knowledge and skills : Students acquire knowledge of the significance and role of financial planning.

② Thinking, judgment, and expression skills : Students acquire the ability to think, make judgments, and express themselves in financial planning to realize their own dreams and goals.

③ Independent attitude : Students can improve their financial knowledge along with taking into account their personal life and household finances.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report (30%), term-end examination (in class) (40%), and in-class contribution (30%) .

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：武貞 稔彦、講師 (ゲストスピーカー)
：株式会社オリエントコーポレーション

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：土2/Sat.2 | キャンパス：市ヶ谷
備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

少子高齢化が進み、社会の効率化と生産性の向上が求められる我が国において、キャッシュレスの普及は社会全体の発展のために必要不可欠です。よって、①国内外のキャッシュレス環境、②社会課題解決におけるキャッシュレスの役割、③技術革新と未来のキャッシュレス決済を学び、創造的な解決策や新たなビジネスモデルを考える能力を身につけることは重要です。

【到達目標】

①キャッシュレス環境の理解と活用能力の向上：国内外のキャッシュレス環境について深く学び、実際の現場での利用方法やリスク等を理解することで、キャッシュレスの活用能力を向上させることをめざします。

②社会課題解決におけるキャッシュレスの役割：キャッシュレスの役割をより具体的に理解し、社会的課題解決にどのように関わることができるかを考えることで、社会への貢献意識を高めることをめざします。

③技術革新と未来のキャッシュレス決済：新たな技術革新や未来のキャッシュレス決済のトレンドについての知識を身につけ、それらを活用した創造的な解決策や新たなビジネスモデルを考える能力を養うことをめざします。

以上を学ぶことにより、キャッシュレスの重要性や有効性を理解し、将来の社会での役割を果たすための能力を身につけ、持続可能な社会の構築に向けた貢献意識も高まることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義内容により講師が交代する場合があります。毎回、学習支援システムより受講後アンケートを提出していただきます。講義はオンライン (ZOOM) で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	キャッシュレス社会の今に迫る	(1) 講座の目的を知ろう！ 未来の決済を一緒に考える (2) 国家戦略に迫る！ 政府の推進策を理解しよう (3) 今、何が起きているのか？ 国内のキャッシュレス動向を解説 (4) 選択肢を広げよう！ 多彩な支払手段を徹底解剖

第2回	キャッシュレスの基本から学ぶ ～仕組みと魅力～	(1) 秘密を解明！ 仕組みを分かり易く解説 (2) キャッシュレスを支える！ 業界団体の重要な役割 (3) 安心して使うために！ 注意点を理解する
第3回	キャッシュレスのビジネスモデルと現場を学ぼう！	(1) 現場から学ぶ！ キャッシュレスの活用事例 (2) 競争激化！ 決済を取り巻くビジネスモデル
第4回	グローバルなキャッシュレスの潮流	(1) キャッシュレス社会を築く国々の実情 (2) なぜ国によって違うのか？ キャッシュレスの多様性 (3) グローバル化が与える影響と展望
第5回	キャッシュレス社会がもたらす新しい風景	(1) 社会を変える！ キャッシュレスがもたらす恩恵 (2) 新たな視点で見る！ キャッシュレスが導く可能性
第6回	扉を開け！ キャッシュレス時代を切り拓く鍵とは	(1) 普及を妨げる要因とは？ キャッシュレス化が直面する課題 (2) デジタル社会を実現！ キャッシュレスの役割
第7回	あなたは大丈夫？ キャッシュレス社会の危険信号	(1) 警鐘を鳴らす！ 消費者被害ケーススタディ (2) 賢い消費者になろう！ 安心・安全な取引のヒント (3) 中間テスト
第8回	キャッシュレスで未来を変える！ 社会課題への挑戦	(1) SDGs達成への道のり！ キャッシュレスの役割とは？ (2) 社会課題解決に向けた価値創造！ キャッシュレスの新しい可能性
第9回	キャッシュレス社会を支える法律の動向	(1) 決済に関わる法律の全体像 (2) 多様化する決済手段、消費者ニーズへの法律上の対応 (3) 消費者保護要請に対する法律の動向
第10回	キャッシュレスを支える！ 技術およびデータ分析の動向	(1) 認証技術の革新！ 最新事例を学ぶ (2) データ分析がもたらす新たなビジネスチャンス
第11回	キャッシュレスを支える！ 次世代テクノロジー	(1) AIが変えるキャッシュレスの活用事例 (2) API連携の進化がもたらす新たな可能性
第12回	クレジットカード等の審査について学ぼう！	(1) スコアリングによる審査の仕組みを理解する (2) AIと信による新しい審査
第13回	キャッシュレスの未来を語ろう！ 最前線の挑戦	(1) 新たなサービスに取り組む背景を考える (2) 常識を疑え！ 社会課題を解決する新サービスの創造
第14回	まとめ/最終テスト	(1) 社会課題解決のヒント (2) 最終テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし。

【参考書】

各回の講義資料については、学習支援システムへ掲載。

【成績評価の方法と基準】

受講後アンケートの提出 (30%)、中間テスト1回 (30%) および最終テスト (40%) の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。なお、受講後アンケートの提出回数が全14回の講義中7回以下の場合は単位を付与しないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークの時間があると、より理解が深まると考えられる。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、PCを用意してください。

【その他の重要事項】

毎回、学習支援システムより受講後アンケートの提出を求めます。アンケートを集計し、講義内容の理解度、定着度の確認を行います。講義内容に関する質問があれば、次回講義以降に回答を行います。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In our country, where the birthrate is declining and the population is ageing, requiring increased efficiency and productivity in society, the promotion of cashless payments is essential for the development of society as a whole. It is therefore important to learn about (i) the cashless environment at national and international level, (ii) the role of cashless in solving social issues, and (iii) technological innovation and future cashless payments, in order to develop the ability to think of creative solutions and new business models.

【到達目標 (Learning Objectives)】

1. Understanding the cashless environment and improving the ability to use it: The goal is to improve the ability to use cashless by learning more about the cashless environment in Japan and globally, and understanding how it is used and the risks involved in actual situations.
2. The role of cashless in solving social issues: The goal is to improve the awareness of the contribution that cashless can make to society by understanding more concretely the role of cashless and considering how it can be involved in solving social issues.
3. Technological innovation and cashless payment of the future: The goal is for students to gain knowledge of new technological innovations and future trends in cashless payment, and to develop the ability to think of creative solutions and new business models that make use of these innovations.

By learning the above, we expect students to understand the importance and benefits of cashless payment, acquire the ability to play a role in the future society, and increase their awareness of their contribution to the creation of a sustainable society.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

The standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grades will be based on the submission of post-lecture questionnaires (30%), a mid-term exam (30%) and a final exam (40%) and credit will be granted or withheld.

No credit will be given if the number of post-lecture questionnaires submitted is less than 7 out of the 14 lectures.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：伊藤 マモル、講師（ゲストスピーカー）
：大日本印刷株式会社NEXUSホールディングス株式会社
開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル技術を活用した新しいスポーツ「スマートフェンシング」を体験しながら学ぶ特別授業です。センサー機器やアプリを用いてプレーを可視化し、データに基づいたフィードバックを通して、新しいスポーツ文化の可能性を体験的に理解します。実技は安全に配慮したルールで実施するため、フェンシング未経験者でも安心して参加できます。

授業では、近年のオリンピックなどの国際大会での本学OB・OGの活躍が目覚ましいフェンシングについて、その歴史や文化的背景にも触れながら理解を深めます。また、フェンシングのルーツであるフランス語によるスキルやルールの正しい発音を体験的に学ぶなど、実技授業としてはユニークな試みも取り入れます。異なる学部・専攻の学生が共に活動することで多様な価値観に触れ、学生同士の交流を深めながら協働する力を養うことも本授業の特徴です。さらに、スポーツ体験を通じて自身の健康やライフスタイルについて考える機会とし、大学生活の中で新しい挑戦や学びを得ることを目的としています。

本授業は、大日本印刷およびNEXUSの支援による特別授業（寄付講座）として開講され、全学部1年生以上の学生が履修可能です。両社は教育・研究の場にスマートフェンシングを教材として提供することで、社会貢献と文化振興、そして次世代の人材育成に寄与することを目指しています。

【到達目標】

- 1) オリンピックやワールドカップ等で国際的評価が高まる我が国のフェンシング競技を、スマートフェンシングを通じて理解・体験する。
- 2) 新しいスポーツへの挑戦を通じて、スポーツ文化の多様性や可能性を学ぶ。
- 3) 学部を超えた交流を通じ、コミュニケーション能力や協働性を養う。
- 4) 多くの学生にとって未経験に近いフェンシングを実践し、これまでに経験のない動きを身につけることで、スキルや巧緻性など体力要素への刺激を得ながら、自身の健康や体力増進の必要性を考える。
- 5) 学生自身が新しいゲーム方法や競技形態を提案し、創造性を発揮する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業はオースタムセッション期間中に市ヶ谷キャンパスにおいて開講します。授業の定員は40名とします。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業では、各回の40～60%以上を実技に充てる構成を基本とし、学生が実際に身体を動かしながら学ぶことを重視します。授業は、以下の集中形式で実施します（全14回）。

オースタム・セッション集中授業計画（全14回）

- 1日目（9月15日） 2限～5限（計4回）教場：F309教室
2日目（9月16日） 2限～4限（計3回）教場：スカイホール
3日目（9月17日） 2限～4限（計3回）教場：スカイホール

4日目（9月18日） 2限～5限（計4回）教場：薩埵ホール

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/kaorbDU774HUoF856>

●申請期間

2026年3月14日（土）17:00～3月31日（火）12:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、本科目独自の履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**4月9日（木）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**4月5日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mamo1@hosei.ac.jp

③履修登録は**2026年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1 (F309 教室)	9月15日（2限）：ガ イダンスと導入	1) 授業の目的説明 2) 寄付講座について（企業概要：DNPとNEXUS） 3) 受講生の自己紹介・アイスブレイク 4) スマートフェンシングの概要説明 5) フェンシングの文化史 6) 法政大学フェンシングの歴史
2 (F309 教室)	9月15日（3限）： フェンシングの歴史 と文化	フェンシングの歴史と文化的背景に親しむ 決闘と騎士道精神：文学と映画から学ぶフランス文化（講義＋演習）
3 (F309 教室)	9月15日（4限）：基 本ルールと実技	1) 安全確保 2) フェンシングの基本ルール 3) 礼儀作法（サリュエ、アンガルドなど） 4) 反則行為 5) 正しいフェンシング用語の発音

4 (F309 教室)	9月15日 (5限)：機材操作と実戦導入	1) スマートフェンシングの機材・アプリの操作習得 ・基本操作 ・特殊操作 (チーム変更、画像挿入など) ・大会モード 2) 個人戦の体験練習
5 (スカイホール)	9月16日 (2限)：基本動作の習熟	基本動作とフェンシング競技としての習熟 1) 戦術・戦略 ・用語の復習 ・剣の動作 (防御・攻撃の違い) ・ターゲット ・駆け引き (4すくみ) ・フルーレの攻撃権 (優先権) ・金属剣に触れる 2) 基本動作 前進・後退・突き・防御等の実技練習とフィードバック
6 (スカイホール)	9月16日 (3限)：試合形式での応用	1) ミニゲーム形式での試合体験 ・個人戦と団体戦 ・2対2などの複数人数形式 ・紅白戦、イタリアンリレー 2) 得点・動作ログの確認を通じた作戦会議
7 (スカイホール)	9月16日 (4限)：文化リサーチ発表と議論	グループごとにフェンシング文化のリサーチ発表 ヒント> 武道と騎士道の比較と歴史的背景 (剣と戦争の歴史)、マナー・ジェントルマン (欧州文化への浸透)、スポーツマンシップ、スポーツ競技化と3種目の起源など、国際大会とオリンピック・パラリンピック、パラフェンシングなど
8 (スカイホール)	9月17日 (2限)：アダプテッドスポーツ理解と体験	1) デフやブラインドなども含め、アダプテッドスポーツの理念と多様性を学ぶ2) フェンシングとの違い、障害のクラス分け 3) シットティングフェンシング体験 (概要とルール) 4) ブラインドフェンシング体験 (概要とルール)
9 (スカイホール)	9月17日 (3限)：多様なチームでの交流戦	1) ジェンダー・多様性を考慮した混合チーム戦体験2) ユニバーサルスポーツおよびインクルーシブデザインの視点での交流
10 (スカイホール)	9月17日 (4限)：健康増進とスポーツの考察	体力・健康増進プログラム実践および心拍数・運動量データ等の簡易確認と、生涯スポーツとしてのスマートフェンシング活用考察
11 (薩埵ホール)	9月18日 (2限)：実戦と戦略	グループ対抗戦 (リーグ形式)での競技体験と戦術分析 1) フルーレ種目の実施 2) 試合運営：試合結果の記入、審判

12 (薩埵ホール)	9月18日 (3限)：ユニバーサルスポーツ考案	スマートフェンシングを用いた新たなユニバーサルスポーツのアイデア考案グループワーク <ヒント> 1) 新ルール (環境やスールの変化や追加) 2) 新しい技 3) 技名 4) 追加機能など 5) あったら便利な機能や欲しい機能のアイディア
13 (薩埵ホール)	9月19日 (4限)：考案発表と議論	グループ考案したユニバーサルスポーツの発表と質疑応答
14 (薩埵ホール)	9月18日 (5限)：総括とレポート提出	授業全体の振り返り 1) 学びの共有 2) 健康・スポーツ文化への考察 3) 最終レポート作成と提出 <ヒント> 西洋剣が使われている映画・アニメ・漫画・ゲーム作品から、動きと実際の動きの違いを考察するなど

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業における授業外学習の時間は、予習および復習をそれぞれ2時間程度を標準とする。

本授業は4日間の集中形式で実施するため、各授業日の終了時に、次回までの学習課題として以下の内容に取り組むことを求める。

1. 授業で扱うフェンシングの基本動作およびスマートフェンシング機器の操作方法の事前確認
2. 競技ルール、安全管理、審判動作に関する資料や動画の確認
3. 授業で習得した実技動作のセルフチェックと改善点の整理
4. 疲労回復を目的としたストレッチング、コンディショニング、アイケア等の実践
5. 授業内容の振り返り記録 (簡易レポートまたはトレーニングログ) の作成

これらの学習を通じて、技能の定着を図るとともに、安全に競技を実践するための意識を高め、あわせて自らの身体状態を把握し適切に調整する力の育成を目指す。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を紹介または配布します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の単位認定は、到達目標に示した各項目の達成状況を基礎とし、授業への取り組み姿勢、技能の習得過程、ならびに協働的な学習への参加状況を含め、以下の基準に基づいて総合的に評価する。

1. 授業への参加態度および実技への取り組み状況：60 %
授業態度、主体的な参加姿勢、技能向上に向けた努力の過程、グループ活動における協力的な行動などを、授業全体を通じて総合的に評価する。
2. 授業課題 (課題レポートおよびリアクションペーパー)、成果発表 (資料内容の適切さ、発表の構成、説明の明確さ、発表に対する取り組み姿勢など)：50 %

なお、本授業は実技および体験の学習を中心とする科目であるため、全回出席を原則とする。スポーツ実践、トレーニング、コミュニケーション活動そのものが学習内容となるため、欠席は学習成果の形成に大きく影響することから、やむを得ない事情を除き欠席は望ましくない。

ただし、病気やけが等の身体的理由により通常の実技参加が困難な受講者については、授業への参加状況や提出課題等を踏まえ、個別の状況に応じて評価方法を調整する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は、本科目は新規開講科目として位置づけられるため、現時点では本授業に関する学生アンケートは実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

本授業は一般教室内での実技を中心に行うため、以下の物を各自準備すること。授業は9月中旬に実施するが、空調のある室内環境で身体活動を行うため、適切な体調管理とこまめな水分補給を心掛けること。

1. 運動に適した服装および室内用シューズ
2. 飲料水またはスポーツドリンク等の水分補給用ボトル
3. タオル（汗拭き用および予備）
4. 着替え一式
5. 必要に応じて、冷却タオルやネッククーラー等の暑熱対策用品
6. 必要に応じて、塩分補給用タブレットや経口補水液
7. 筆記用具
8. スマートフォンまたはタブレット端末（授業内容の確認、振り返り記録、動画確認等に使用する場合がある）

なお、着替えは市ヶ谷総合体育館2階の更衣室を利用し、授業開始前に済ませておくこと。また、貴重品の管理は各自の責任において確実にすること。

授業中は担当教員および指導者の安全指示に従い、無理な動作や危険行為を行わないこと。体調管理は各自で十分に行い、睡眠不足や著しい体調不良がある場合は無理に参加せず、事前に担当教員へ連絡すること。また、本授業は実技を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

【その他の重要事項】

1. 本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。

2. その他

1) この授業では、**LINE**グループを作成した場合において、誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。

2) 履修する場合、オータムセッション期間（授業予定日：9/15～9/18）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。

3) 本授業で得られた実習風景の写真や、健康測定結果、議論の内容は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course explores the emerging possibilities of sports culture through Smart Fencing, a digital-technology – enhanced form of fencing. Students learn the historical and cultural background of the sport while engaging in safe, enjoyable, and accessible practical activities. The course emphasizes interaction among students from various faculties, encouraging communication, collaboration, and exposure to diverse perspectives.

Through hands-on practice, students experience new physical movements, develop agility and coordination, and reflect on physical health and lifestyle. Students will also have opportunities to design and propose new game formats, demonstrating creativity and expanding the potential of Smart Fencing as a universal sport.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

Understand and experience Japanese fencing culture – recognized internationally at events such as the Olympics and World Cup – through Smart Fencing.

Learn the diversity and potential of sports culture by engaging in a new sport.

Strengthen communication and collaboration skills through cross- faculty interaction.

Experience unfamiliar fencing movements and consider health promotion and physical fitness through practical training.

Propose original game formats or competition structures, demonstrating creativity and innovation.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.

Outside- class activities include:

Reviewing basic fencing movements and Smart Fencing device operation.

Studying rules, safety procedures, and referee movements through documents or videos.

Conducting self- checks of practiced movements and identifying points for improvement.

Practicing stretching, conditioning, and eye- care routines to support recovery.

Keeping short reflective notes or training logs after each class to support skill acquisition and self- management.

These activities help students reinforce skills, improve safety awareness, and monitor their physical condition.

【Grading Criteria / Policy】

The awarding of credits for this course is based on the degree to which students achieve the learning outcomes described in the “Course Objectives.” In addition, students will be evaluated comprehensively according to the following criteria, which include their overall attitude toward the class, the process of skill acquisition, and their participation in collaborative learning.

1. Class Participation and Engagement in Practical Activities: 60%

2. Course Assignments (written reports and reaction papers) and Final Presentations: 40%

Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.

Evaluation will be comprehensive.

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携講座 (アドバンス)

高見 京太、佐野 竜平、深野 聡

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における競馬は、1861年に初めてレースが行われて以来、160年の歴史を有しています。現在では10万人規模の観客を集めるレースも開催され、その人気はテレビやインターネットコンテンツ、SNSを通じて広く知られています。競馬の中心となるのは競走馬ですが、その舞台裏には多様な分野の専門家が関わり、競馬を支えています。また、競馬は日本における重要な産業の一つであり、単に馬のレースという枠を超えて、人々の暮らしや地域社会に多くの影響を与えています。

本講義では競馬を題材に、スポーツビジネスの仕組み、持続可能な社会の在り方、そして人と馬のウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）の可能性について学びます。

【到達目標】

競馬の歴史や国内外の競馬界、競走馬、競馬場について学び、スポーツとしての競馬を他者に説明できる。

競馬ビジネスの戦略を理解し、ビジネスとして成立する要因やその運営を支えるメカニズムを関連づけて説明できる。

競走馬のセカンドキャリアについて学び、人馬のウェルビーイングに貢献する引退競走馬の利活用について具体的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV,VII」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・競馬に関わる専門的な事項については、JRAの各領域の専門家が講義を行います。

・復習テストまたはショートレポートを通じて、各回の学びを整理し、最終的には総まとめのレポート課題を提出します。

・開講時限は、水曜日4時限目の3キャンパスの授業時間が重なる15:30から16:40の70分間です。そのため、市ヶ谷キャンパスの4時限目開始時刻の30分後に始まり、多摩キャンパスの4時限目終了時刻の30分前に終わります。

・講師が教室で講義を行うのは、原則として市ヶ谷で7回、多摩で7回（合計14回）です。受講する学生は、14回全てをそれぞれのキャンパスで受講し、7回は対面で、7回は教室のスクリーンに映し出されるもう一方のキャンパスの授業を受講します。

・フィールドワークは、JRA東京競馬場（府中市）とJRA馬事公苑（世田谷区）を会場として、現地集合、現地解散で行います。

→フィールドワークⅠ

実施日：11月上旬の土曜日

場所：東京競馬場

テーマ：競馬関連施設および観客の前で行われる競馬のレースを見学し、それまでの学びを確認する。また、その後の学習内容をより深く理解するための知識を身につける。

→フィールドワークⅡ

実施日：11月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)の中から1日を選択

場所：JRA世田谷区馬事公苑

テーマ：引退競走馬のセカンドキャリアの1つとして、内国産乗用馬および引退競走馬限定の馬術競技大会を観戦して、引退競走馬が競技馬として新たな役割を担う様子や、人馬のウェルビーイングを支える取り組みについて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習内容の理解	本授業の全体像を把握し、学びの目的を明確にする。また、授業を通じて達成すべき到達目標を確認し、学習の方向性を定める。さらに、競馬がもたらす人馬のウェルビーイングをスポーツビジネスの観点から捉え、課題解決型学習（PBL）としての取り組み方を理解する。併せて、授業全体の進行計画や評価方法について確認し、主体的な学びを深めるための準備を行う。
2	競馬の概要	競馬とは何か、その歴史や社会的な役割を含めて理解を深める。また、日本における競馬の運営主体である日本中央競馬会（JRA）の業務内容やその役割について学ぶ。さらに、公営競技としての競馬の仕組みや特徴、競馬産業が持つ経済的・文化的な意義についても考察し、競馬が社会に与える影響を多角的に捉える。
3	競馬法とその改正の歴史	競馬の実施において最も重要な法律である「競馬法」の成立背景と改正の歴史を学び、競馬の制度や運営にどのような影響を与えてきたのかを理解する。加えて、競馬法に定められている具体的な内容を確認し、現代の競馬体系と法制度がどのように関連しているのかを考察する。さらに、競馬における勝馬投票券（馬券）の仕組みについて学び、払い戻し率や投票方式の種類、収益構造などについて理解を深める。
4	ギャンブル等依存症対策	競馬が公営競技としてギャンブル性を持つことを認識し、その社会的な影響について理解を深める。特に、競馬に関連するギャンブル等依存症の実態を学び、そのリスクや問題点について考察する。また、日本中央競馬会（JRA）が実施する依存症対策の具体的な取り組みを学び、ギャンブル等依存症の予防・対策の重要性や、公営競技としての社会的責任について理解を深める。さらに、国内外における依存症対策の事例も参考にしながら、競馬が健全に楽しめる環境をどのように整備すべきかを考える。

5	競馬の舞台装置	競馬が行われる競馬場の構造や機能について理解を深める。特に、競走馬が走る馬場（芝コース・ダートコース）の特徴や管理方法を学び、競馬の公正な実施に不可欠な環境整備について考察する。また、競馬場内に設けられた職員が執務するエリアや競走の運営に関わる施設、さらに観客が利用するスタンドや指定席エリア、パドックなどについても学ぶ。競馬場全体の役割と機能を総合的に理解し、フィールドワークに向けた準備を進める。	9	馬事振興への取組み	日本中央競馬会（JRA）が馬事振興に取り組む意義や目的を理解し、競馬産業だけでなく、馬との共生を促進するための活動について学ぶ。特に、競走馬の生産・育成支援、引退競走馬のセカンドキャリア支援、乗馬振興、馬文化の継承と普及といった具体的な施策を確認する。また、全国の乗馬クラブや教育機関との連携、馬を活用した地域振興や観光振興への貢献についても考察する。これらの取り組みを通じて、馬事振興が持つ社会的意義や、JRAが果たす役割について総合的に理解を深める。
6	競馬のプロモーション戦略	日本中央競馬会（JRA）が実施する各種プロモーション施策の目的や狙いを理解し、競馬の魅力を広く発信するための戦略について学ぶ。特に、競馬ファンの獲得や競馬文化の発展を目的としたメディア戦略、広告展開、SNS活用の手法を分析する。また、競馬場でのイベントやファンサービス、地域との連携企画などのイベント戦略にも着目し、それらが競馬のブランド価値向上や新規ファン層の開拓にどのように寄与しているのかを考察する。これらのプロモーション活動を通じて、スポーツビジネスとしての競馬のマーケティング手法を総合的に理解する。	10	世界の競馬	競馬が世界各国で広く行われていることを踏まえ、その歴史や発展の経緯を学び、国ごとの競馬文化の違いを理解する。特に、欧米やアジア、オセアニアなど主要競馬国における競馬の種類（平地競走・障害競走・繋駕競走など）や特徴、競馬産業の仕組みを比較し、日本競馬との違いを考察する。また、日本の競馬が国際的にどのような立ち位置にあるのか、競走馬の輸出入、国際競走への参戦実績、競馬技術の発展などを通じて検証する。さらに、世界の競馬が持つスポーツビジネスとしての側面や、今後の国際交流の可能性についても探る。
7	映像コンテンツとしての競馬	日本中央競馬会（JRA）の歩みとともに、競馬映像の歴史を振り返り、その発展と技術革新について学ぶ。競馬映像が持つ役割として、レースの公正性を担保する記録映像、ファンに向けたエンターテインメント要素、競馬文化の継承や新規ファン獲得を目的としたプロモーション映像など、多様な側面を理解する。また、インターネット配信の普及や映像技術の進化による競馬映像の変化に注目し、映像コンテンツの課題や今後の展望について考察する。競馬の魅力を映像を通じてどのように伝えるべきかについて、スポーツビジネスの観点から深く検討する。	11	競馬の生産現場	競走馬の生産拠点として知られる北海道新冠町における軽種馬産業について学び、生産牧場や種馬場の役割と機能を理解する。特に、競走馬の生産・育成のプロセスを学びながら、優れた競走馬を育成するための環境や技術について考察する。また、新冠町における軽種馬産業と地域社会との関係性に注目し、馬産業が地域経済や文化に与える影響についても分析する。
8	インターネットを活用した販売戦略	日本中央競馬会（JRA）がこれまで展開してきた勝馬投票券（馬券）の発売の歴史を振り返り、販売手法の変遷を理解する。特に、場外発売所や電話投票の導入から、現在主流となっているインターネットを活用した販売戦略への発展について学ぶ。さらに、JRAが提供するオンライン投票サービスの仕組みや、ユーザーの利便性向上を目的としたデジタルマーケティング戦略について分析する。加えて、他の公営競技と比較しながら、インターネット販売が競馬産業の収益構造やファン層の拡大にどのような影響を与えているのかを考察し、今後の可能性についても検討する。	12	馬のウェルビーイング	馬の健康と福祉を評価するための多面的なアプローチについて学び、馬の身体的・精神的な健康を維持するための要素を理解する。具体的には、適切な飼養管理、栄養管理、運動環境、獣医療の役割に加え、ストレス軽減や行動学的観点からのウェルビーイング評価方法について考察する。また、競走馬や乗用馬におけるウェルビーイングの確保が競馬産業全体に与える影響についても検討し、馬と人の持続可能な関係を築くための取り組みについて理解を深める。

- 13 引退競走馬を軸にした循環型社会と農福連携
- 引退競走馬の活用を軸とした循環型社会の構築と、農業・福祉との連携（農福連携）について学ぶ。具体的には、引退後の競走馬がホースセラピーや乗馬、農業支援など多様な分野で活躍する事例を通じて、人馬のウェルビーイングを実現するための実践的な取り組みを理解する。また、農業分野における馬の活用や、障がい者や高齢者の就労支援との連携について考察し、持続可能な社会づくりにおける馬の役割を探究する。さらに、これらの取り組みを競馬産業や地域振興にどのように応用できるかについても検討し、社会的意義と今後の展望を考える。
- 14 引退競走馬のセカンドキャリア(リトレーニング)
- 競馬を引退した競走馬が、新たな役割を担うための「リトレーニング（再調教）」という手法について学ぶ。競走馬としてのトレーニングとは異なるアプローチで、新たな環境に適応し、乗馬やホースセラピー、スポーツ競技、教育プログラムなどで活躍できるようになる過程を理解する。特に、大学における人馬のウェルビーイングの実践として、リトレーニングをどのように取り入れ、教育や研究に活用しているのかを考察する。また、引退競走馬のセカンドキャリアを社会全体で支えるための仕組みや課題についても検討し、持続可能な人馬の関係構築に向けた展望を探究する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

人馬のウェルビーイング. 高見京太、佐野竜平編著, クリエイツかもがわ, 2025.

<https://www.creates-k.co.jp/genre/shakai/10196/>

【成績評価の方法と基準】

各回の復習テスト：84%（6点×14回）

フィールドワークのショートレポート：6%（3点×2回）

最終レポート：10%

【学生の意見等からの気づき】

配信を受ける側の教室の受講者より、講師の声が聞き取りにくいことがあった、との指摘を受けたので、講師にマイクの使用方法について注意を促す。

【その他の重要事項】

本授業の講義は、市ヶ谷キャンパスと多摩キャンパスの教室で実施します。

受講するキャンパスにより授業コードが異なるため、履修登録時に注意してください。

・市ヶ谷キャンパス授業コード：A9950

・多摩キャンパス授業コード：A9951

※選択したキャンパスで全ての回を受講していただくことになります。

※市ヶ谷を選択した場合、水曜3・5限に多摩または小金井の授業を履修登録できず、多摩を選択した場合、水曜3・5限に市ヶ谷または小金井の授業を履修登録することができませんので、注意してください。

本授業のフィールドワークは、土曜日または日曜日に実施します。

【フィールドワークⅠ】の実施日については、決まり次第お知らせします。なお、2025年度は11月15日に開催された「武蔵野ステークス（GⅢ）」を観戦しました。

【フィールドワークⅡ】は日程が確定しており、11月21日（土）・22日（日）開催の「関東学生自馬大会」または11月28日（土）・29日（日）開催の「JRAブリーディングホースショー」のうち、いずれか1日を選んで観戦します。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn that horse racing is involved in the sports business, sustainable society, and Horses and Humans Well-being.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Learn about the history of horse racing, the domestic and international horse racing world, racehorses, and racecourses, and understand horse racing as a sport.

-B. Understand the strategy of the horse racing business and gain systematic knowledge about the factors that establish the business and the mechanisms that support its operation.

-C. Learn about the second career of retired racehorses and understand the efforts of Horses and Humans Well-being.

Learning activities outside of classroom

This course's standard time for preparation and review is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Review test: 84% (6 points x 14 times)

Fieldwork report: 6% (3 points x 2 times)

Final report: 10%

